

調査検証
コース



能取岬灯台利活用プロジェクト

コンソーシアム名：能取岬灯台コンソーシアム

対象灯台：能取岬灯台（北海道網走市）

調査検証報告

1.調査・検証概要

調査検証を構想した背景

1. 背景

能取岬は自然の織りなす造形と素敵なデザインの灯台からなり、網走を代表する景観の一つである。岬は知床連山を見通すことができる高台となっており、春には原生の花が咲き、夏は緑に覆われ、冬には流氷を見渡す事ができ、年間を通して観光客が訪れる。国内外の様々な映画やCMなどのロケ地となっていることから、その素晴らしさは客観的にも認められているといえる。また、次項に挙げる独自のストーリーも存在し、観光地としてのポテンシャルは非常に高い。

しかし、公共交通機関が整備されていないことから、自家用車、レンタサイクル、タクシーでのアクセスとなっており、アクセスできる旅行者は限られている。また、駐車場を含め全く収益化されていない状況であり、観光消費の機会損失が生じていると言える。



2. 能取岬独自のストーリー

能取岬では、以下に挙げる独自のストーリーが存在する。

①冬季に流氷が訪れる

冬季になると、能取岬をはじめとするオホーツク海には流氷が漂着し、能取岬からは一面の流氷と知床連山を見回すことができ、この幻想的な風景は全国随一である。また、流氷の下には「流氷の天使」とも言われるクリオネが泳いでおり、神秘さを増している。冬季は流氷により船は出航できないことから、灯台の灯りも落とされるという珍しい側面もある。

②沖合にクジラやイルカが回遊している

能取岬沖合にはクジラが回遊しており、岬から見えることもあるという。クジラは、富の象徴、幸福、家族円満、生命力の象徴などとも言われており、縁起の良い生き物である。イルカは愛と平和の象徴と言われ、海に住む守り神、幸運への先導者として人々に愛されてきた。

③古代オホーツク文化の時代からクジラ漁が行なわれていた

古代オホーツク人は、クジラやアザラシなどの漁をしており主食としていた。当時の木造の舟での漁は危険を伴った事と考えられ、海に出る男はさぞかし勇敢だったことと思われる。近代になってからも捕鯨は行われ、1987年の商業捕鯨停止までは年間40頭ほどのクジラが水揚げされていた。昭和初期ではクジラが水揚げされると帰港時に「ポー」と汽笛をならし、船員の家族、街中、そして北見方面からも浜辺で行われる解体を見物する人々が集まっていたという。まだ貧しい時代、クジラの水揚げにより街は潤ったと言われている。

1.調査・検証概要

調査検証を構想した背景

能取岬が面するオホーツク海は、流氷の漂着やクリオネ、クジラやイルカなどの存在により、古代から現代まで神秘性に溢れている。同時に、海の恵みの恩恵を受けるために過酷な自然と対峙した男たちの様子も伺える。このような地に建つ能取岬灯台は、自然の景観に溶け込み、雄大な自然を照らし続ける。これらから、能取岬灯台は「自然の恵みに溢れた神聖な地の象徴」と考えている。

そこで、「新たな灯台利活用モデル事業」を活用し、灯台を含む能取岬の利活用に向けた調査と検証を行い、将来的に付加価値を付け観光収益事業化することで網走への集客の目玉とし観光消費を向上したい。加えて地域住民からも愛される観光地となるようにしたい。

2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

①能取岬と灯台について一般的に知られていないストーリーが存在する

当プロジェクトの準備として、前項で述べた「能取岬独自のストーリー」を調査した。今後は、更に深掘することで新たなストーリーが生まれると考えている。また、灯台の基礎調査により新たな視点によるストーリーも期待できる。

②地域のストーリーと結び付けた観光コンテンツを創造することで集客と収益化を図ることが出来る

地域のストーリーと関連付けた観光コンテンツを創造することで能取岬灯台に付加価値を付け、プロモーションを積極的に行うことで日本全国、海外からの旅行者を集めることができると考えている。また、お金を使ってもらえるコンテンツにすることで収益化の第一歩となる。

現在の観光コンテンツの案として、以下の二つを考えている。当プロジェクトでアイデアを膨らませることで、改善や新たな案を検討したい。

(1)恋人の鐘と鍵

能取岬において、捕鯨船の帰港時に住民に届ける汽笛「ポー」を再現したいが、船の汽笛と紛らわしくなってしまうことが考えられるため、鐘を代替したい。恋人や家族に対し、お互いの存在感を示す鐘と位置付けたい。また、船が着港時にホーサー（ロープ）をかけるが、それを代替し南京錠をかけることで絆を誓う場としたい。南京錠をかけることができる観光地は全国的にも前例が多数あるが、その分知名度を上げるための手助けにもなる。網走では現在20代の旅行者が比較的少ないことから、カップル集客の要としたい。

南京錠は、道の駅および能取岬に自動販売機を設置することで販売し、収益化したいと考えている。高付加価値の南京錠として、南京錠に名前を彫る（削る）サービスを行う案もある。

1.調査・検証概要

2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

(2)幻想の部屋（カメラ・オブスキュラ機能）

カメラ・オブスキュラとは、カメラの基となった技術である。箱に小さな穴を開けることで、外の風景を箱の中に投影することができる。同様な原理で暗室に小さな穴を開けることで、外の風景を壁面に投影することができる。この原理を用いて灯台や観光客を暗室に投影することができ、投影された映像を撮影することで幻想的な写真を撮る事ができる。昨今、スマホにより手軽に撮影できるが、カメラ・オブスキュラにより撮影された写真は幻想的で味があるため、恋人や家族の記念写真としてのニーズがあると考えている。のぞき穴から室内に投影された映像を見る事もできるようにし、撮影は部屋に設置された専用のカメラで無人撮影をすることで収益化したいと考えている。

本事業では、これらに加えアイデアを膨らませニーズや収益化の仮説・検証を行ない、来年度以降に施設の設置に繋げていきたい。また、将来的には香り、味などに関するコンテンツを設置するなどし、五感を通じ体験できるハイセンスな憩いの場を創造することで差別化し集客したい。

③観光コンテンツを充実させることで二次交通を発達させ更なる旅行者の増加を図る事ができる

観光コンテンツを充実させることで旅行者の増加を見込むことができるため、現在存在しない二次交通の収益化の見込みが立つとの仮説を持っている。

④観光コンテンツを充実させることで経済波及効果が生じる

観光コンテンツを充実させることで、全国的、海外も含めた旅行者の増加と現在比較的少ない若年旅行者を取り込むことができると考えている。このことから観光入込数の増加、宿泊者数の増加を見込む事ができ、観光事業者、宿泊業者、飲食店、土産物店への経済波及効果が期待できる。

⑤観光事業者および地域住民の能取岬灯台への関心の高まりを期待できる

当事業の申請までの期限が短かったためプロジェクトメンバーは限られているが、事業内容を周知することで観光事業者や地域住民のメンバー増加を期待している。

また、観光コンテンツを充実させることで、現在存在しない灯台に関連する飲食メニューや土産物、グッズなどの提供も期待でき、地域一体となって能取岬灯台を盛り上げていきたい。

survey 01

能取岬灯台の基礎調査

- ・海上保安庁へのヒアリング
- ・北海道へのヒアリングとサポート確認（国定公園のため）
- ・網走市へのヒアリングとサポート確認（周辺環境、周辺施設状況）
- ・地域の団体等との連携の可能性調査
- ・図書館での文献調査、WEBサイトでの検索
- ・元クジラ漁船長のヒアリング
- ・地域住民へのヒアリング
- ・能取岬灯台周辺調査としてネイチャークルーズ乗船によるクジラ観察



survey 02

観光コンテンツ造成調査

- ・プロジェクトメンバーとのディスカッション
- ・旅行および地域活性化専門家からのアドバイス
- ・集客の参考になりそうな灯台や観光地視察（2カ所程）
- ・ニーズ調査ヒアリング（道の駅にて旅行者30名程に対して行う）
- ・モニターツアー（試験実施）開催（3組程）1年目は観光コンテンツの構造物がないことから、関係者により試験的に実施する
- ・観光コンテンツ決定（利用単価含む）



survey 03

観光コンテンツデザイン費・設計費・建設費の見積

- ・デザイン業者、設計業者、建設業者の選定
- ・来年度以降に設置する観光コンテンツのデザイン費、設計費、建設費の見積



survey 04

収益化調査

- ・能取岬灯台（網走）への来訪者増加数算定
- ・収益施設利用者数算定
- ・施設運営費用および売上から収益計算を行う



survey 05

二次交通調査

- ・二次交通ニーズ調査（道の駅にて旅行者30名程に対して行う）
- ・利用者数算出
- ・定期巡回バスまたはオンデマンドバスを走らせるとしたときの損益分岐点（人数）調査

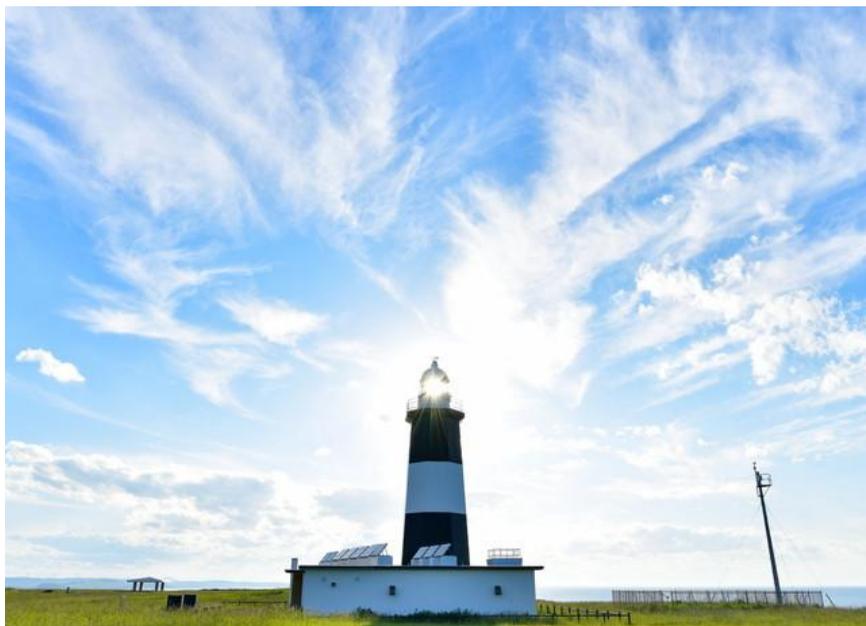


survey 06

経済波及効果調査・報告書作成

- ・能取岬灯台（網走）への来訪者増加数から宿泊者数、飲食数、土産物、観光地利用から経済波及効果を算出する。
- ・地域事業者（飲食店、土産物製造等）への灯台関連商品化アンケート（30社程）
- ・報告書作成





のとりみさきとうだい
能取岬灯台

基礎 データ 	初点灯	1917年（大正6年）10月1日
	灯台の高さ	21m（地上から頂部）
	灯りの高さ	18.5m（地上から灯火）、57m（水面から灯火）
	灯質	単閃白光
	光達距離	約36km
	レンズ	LB-M30型灯器
	構造	コンクリート造
	形状	八角形、白地に黒横帯2本塗り
	設計者	不明（八角形の外観はフランスの技師レオンス・ヴェルニーが設計した江戸条約の灯台の影響を受けたとされる）

設置された経緯



明治時代、根室の納沙布岬灯台と宗谷岬灯台との間には何らの航路標識もなく、航行は非常に危険なものだった。明治中期に航行船舶が増加したことで、網走の高田亦次郎が中心となって灯台建設を要望。大正5年に能取岬の断崖上に建設を開始し、翌年竣工することになった。鉄筋コンクリート造の灯台としては、北海道で一番古いものである。

関係者インタビュー（抜粋）



紋別海上保安部
交通課 専門官

宮川慎一

能取岬灯台は大正6年に建設。昭和23年までは宿舎に灯台守が家族と共に住んでいた。昭和33年～昭和55年には2名の職員が1週間交代で勤務。機械の整備や灯台のレンズ磨きなどを行うほか、敷地の草刈りなどを行った。2017年には灯台100周年のイベントを実施。灯台および敷地での活動は、強い光を発するものは禁止。そのほか、航路標識としての役割を損なわない範囲であれば問題はない。



北方民族博物館
学芸主幹

笹倉いる美

網走エリアには、続縄文文化の終わり（5～6世紀）にオホーツク人と呼ばれる民族がいた。クジラなどの動物意匠遺物が多く発掘されており、海にかかわりの深い生活を送っていたと考えられている。また、オホーツク人にはシャーマンが存在し、牙製の女性像が呪術的な道具として使われていた。

願いの灯台

～ノトロのヴィーナスが導く未来～

オホーツク文化人

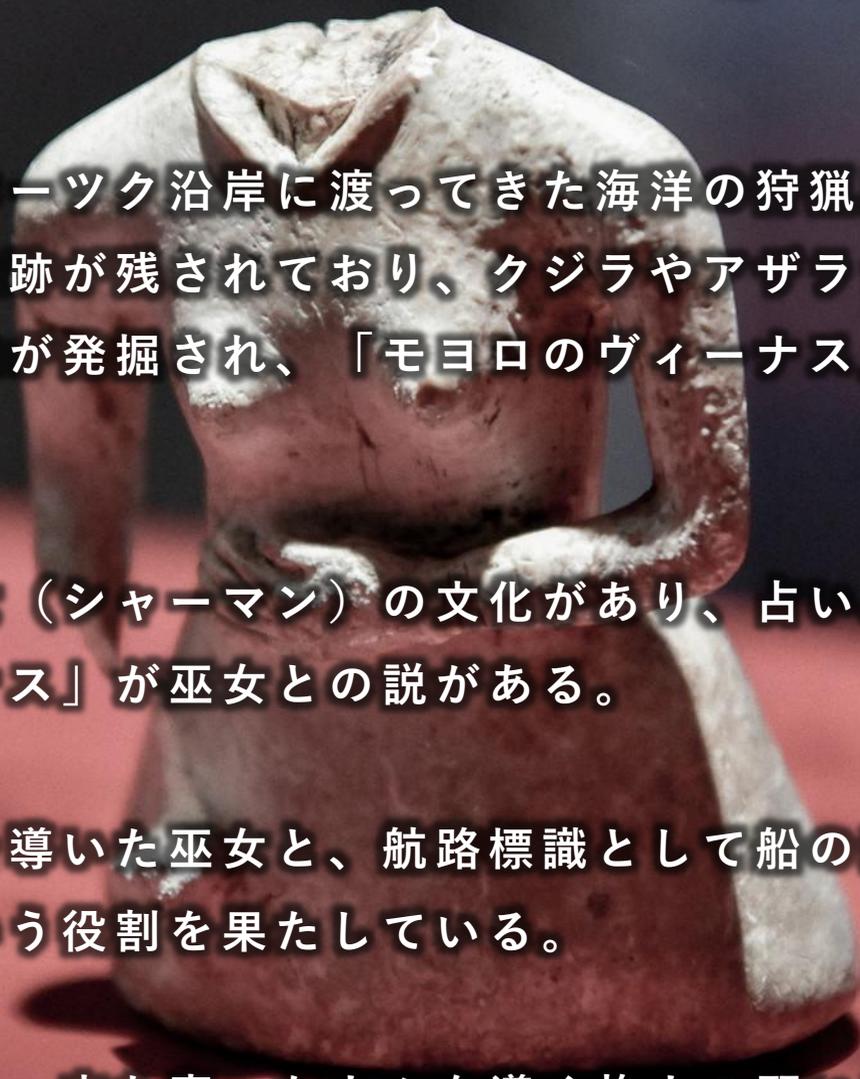
5～6世紀に北方よりオホーツク沿岸に渡ってきた海洋の狩猟民族。網走のモヨロ貝塚などに遺跡が残されており、クジラやアザラシ漁が行なわれていた。クジラの歯で作った女性像が発掘され、「モヨロのヴィーナス」と呼ばれている。

モヨロのヴィーナス

オホーツク文化人は、巫女（シャーマン）の文化があり、占い、祈祷、呪詛などを行っていた。「ヴィーナス」が巫女との説がある。

自然や神と交信し、人々を導いた巫女と、航路標識として船の安全な公開を導いている灯台が、同じ導きという役割を果たしている。

能取岬灯台を船だけでなく、立ち寄った人々を導く旅人の願いを叶える場所とする。 9





歴史・地理など基礎調査

網走市、北方民族博物館、海上保安部、市民などの関係者インタビューおよび文献調査より、基礎データ、歴史、灯台と街の歴史との関係、地理、オホーツク文化と遺跡、能取岬周辺の漁業・農業・観光業について調査した。灯台について包括的な情報を得ることで、ストーリーと観光地作りの基となった。



収益化調査

主な収益源は直接販売するホタテ貝の絵馬であり、下記より持続可能な運用体制が期待できる。

- ・視察より学んだローコストオペレーションから原価を極力抑えることができる。
- ・藻岩山の南京錠販売数を参考に売上額を算出。
- ・視察で学んだ効果的なプロモーションで訴求。



観光コンテンツ造成調査

計4カ所の灯台・観光地を視察し、観光全体を通じたビジネスモデル、無人販売などのローコストオペレーション、ストーリーの大切さ、ユニークなプロモーションなどを学んだ。また、観光客へのヒアリング調査と旅行関係者のファミトリップから意見を企画に反映した。



二次交通調査

自家用車の普及により地方交通機関の収益性は厳しい状況にあるが、魅力的な観光地作りにはかせないことを再認識した。網走バスに協力をいただき、路線バスおよびデマンドバスでの収益・運行試算を行なった。2026年からの宿泊税を活用し、運行への道を探ることとなった。



観光コンテンツデザイン費・設計費・建設費の見積

設置を予定している鐘について、設置済みのものを調査するとともに、デザイン、設計、建設費の見積をいただき費用感を得た。潮風でも錆びにくい耐久性を重視するが、著名デザイナー等によるデザインでは費用が青天井になることから、予算内で良いものを製作することとした。



経済波及効果調査・報告書作成

当事業は主体となる観光協会が収益を上げるのみならず、交通事業者、飲食店、土産物店などが収益を上げるとともに、地元漁業・農業まで経済効果を波及させることを考えている。産業連関図より簡易的な経済波及効果を算出し、波及されることを確認した。

課題

旅行者にとってニーズがある企画の立案

- ◆当プロジェクトでは、観光協会、網走市観光課に加え、旅行専門家2名に加わっていただき北海道内・道外視察を行ないストーリーやコンテンツの企画をしたが、旅行者目線でのニーズに合っているか確認がなかった。
- ◆上記課題の解決を図るため、観光客へのヒアリング調査、旅行関係者のファミトリップ（モニターツアー）を行なうことで以下のことが判明した。
 - ・ニーズはあるものの、人により嗜好が割れる傾向にある。
 - ・能取岬と灯台の素晴らしさに気づいていない人がいる。
 - ・自由な発想でアイデアを募ると様々な案が出る。

課題

インフラ等の制約と低コストを考慮した運用の実現

- ◆基礎調査により、岬には電気、上下水道がなく、また国立公園の制約を受けることから、常設店舗や自動販売機などの設置は現状困難であることが判明した。
- ◆長期的に継続するためには、運用コストを極力減らす必要がある。
- ◆視察により、障がい者の方々への協力による貝の加工や商品の原価を下げることによって無人販売が可能になることを学んだ。

課題

地域全体への経済波及効果の実現

- ◆当初から能取岬灯台での収益化に加え、地域の事業者を巻き込み地域活性化を目指しており、産業連関表による簡易的な経済波及効果調査を行なったが、実際に同様の効果が見込めるか確認がない。
- ◆飲食店に対し灯台をモチーフとしたメニュー開発の意欲についてアンケート調査を行なったが、まだ巻込めていない感触を得た。

課題

網走市街から能取岬灯台への二次交通の実現

- ◆網走バスに協力をいただき、路線バスおよびデマンドバスでの収益・運行試算を行なった。
- ◆自家用車の普及により地方交通機関の収益性は厳しい状況にあり、地域交通や地域観光バスの閑散期については市からの助成金を使用され運行している。
- ◆二次交通運行には、助成金の活用を視野に入れる必要がある。



施策

広くアイデアを組み込んだ企画の立案

- ◆人により嗜好が割れ、また様々なアイデアを得たことから、灯台に設置するコンテンツを多様に複数設置することで、どれかにフックするようにする。また、イベントやグッズなどにも活かす。
- ◆能取岬と灯台の素晴らしさに気づいていない人については、海外・北海道外・道内・市内・岬の現地それぞれで効果のあるプロモーションを行う。



施策

持続可能なローコストオペレーションの実現

- ◆ホタテ貝の絵馬について、以下により持続可能なローコストオペレーションの仕組みを実現できると判断した。
 - ・網走はホタテの産地であることから、無償・格安で貝を入手できる。
 - ・貝の洗浄、加工を障がい者の方々へ協力いただくことで、費用を低減可能である。
 - ・貝を無人販売することで、低コストに抑えられる。



施策

多数の事業者会員を抱える観光協会の強みを活かし経済波及へ結び付ける

- ◆観光協会には、観光事業者、宿泊事業者、飲食店など多様な会員が入会しているため、それぞれの強みを活かして経済波及へ結び付ける。
- ◆灯台をモチーフとしたメニュー開発について、飲食店以外にもお菓子製造・販売会社等多様な業種を巻き込む。



施策

観光地作りと二次交通の両輪として双方が盛り上がるようにする

- ◆二次交通実現には、観光地作りによる集客力アップと二次交通運行による集客力アップという両輪が必要なため、魅力的な観光地作りに努める。
- ◆2026年度からの宿泊税を活用し、二次交通運行への道を探ることとする。

PR TIMESへの掲載

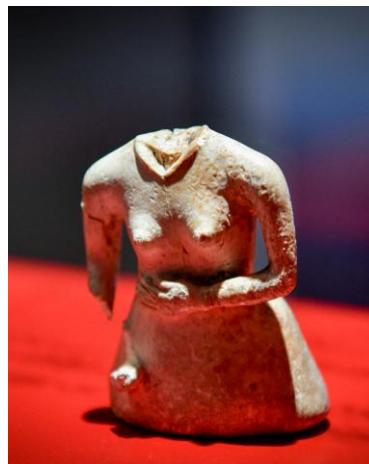
流氷が訪れるオホーツク海の「能取岬灯台」を結節点とした地域活性化に関する調査事業を実施しました 「願いの灯台 ～ノト口のヴィーナスが導く未来～」

海と日本プロジェクト広報事務局 2025年2月28日 11時30分



能取岬（のとりみさき）灯台コンソーシアムは、日本財団「海と灯台プロジェクト」の助成制度「新たな灯台利活用モデル事業」の採択を受けました。網走市にある「能取岬灯台」において、灯台を結節点とした地域活性化の道を探ることを目的とした「能取岬灯台利活用プロジェクト」を実施しています。今年度は、能取岬灯台や周辺の歴史・環境の文献調査や関係者へのヒアリング調査を行い、その特徴からストーリーと来年度に向けた観光コンテンツを考案。また、北海道内・道外視察、ニーズ調査やファミトリップ、二次交通調査などを実施しました。これらを通じて網走地域全体への経済波及効果の検証を行うことで、能取岬灯台の新たな可能性が見えてきました。

この事業は、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施したものです。



のべ19媒体

調査検証をふまえた 今後の展開案

事業背景1

◆ ポテンシャル

- ◆ 能取岬の夏の沖合にはクジラやイルカが回遊し、冬には流氷が訪れ景観に恵まれていると同時に、オホーツク文化人など歴史上興味深い文化も持っている。
映画やTVCMのロケ地としても多数使用され、今後も使用されることが期待できる。
- ◆ 網走には、博物館網走監獄や流氷観光など全国的に有名な観光地が存在する。また、近隣には知床国立公園や阿寒摩周国立公園があるため周遊の機会に恵まれ、魅力的な観光地には多数の観光客が訪問するポテンシャルがある。
- ◆ 日本人観光客は人口減少など頭打ちが見込まれるが、インバウンド需要は大きく増加することが期待できる。能取岬灯台は、中国で著名な映画のロケ地になるなど、海外からの旅行者に対しても強みを持っている。

事業背景2

◆ 私たちが取り組む理由とねらい

- ◆ 灯台を結節点とし、観光客、観光事業者、地域住民を巻き込むことで地域活性化を図り、灯台を地域の誇りとして未来へ継承していく。
- ◆ 能取岬灯台を年間を通して魅力的な観光地に育てることで閑散期対策にもなり、来訪者増加と観光消費増加に繋げたい。
また、収益化を図ることで保守・運用費を生むとともに観光地作りへの再投資による持続的な発展を目指す。
- ◆ 地域の飲食店、土産物屋などによる灯台をモチーフとした飲食メニュー開発やグッズ作成により、幅広い事業者への経済波及効果を得る。また、二次交通運行により更なる来訪者増加と交通機関の利益向上を目指す。

事業概要

事業名 灯台に願いを

～灯台を結節点とした地域活性化事業～

◆ 構築物の設置

願いを叶える鐘、ホタテ貝の絵馬、願いを届けるポスト

◆ イベント

願いを叶えるキャンペーン、灯台一般開放

◆ その他

インフラ整備、SNS活用、商品開発、集客施策

願いを叶える鐘（イメージ：伊良湖岬）



ホタテ貝の絵馬とポスト



（イメージ：磯笛岬展望台・犬吠埼灯台）

ホタテ貝の絵馬と願いを叶えるキャンペーン



広大な大地にポツンと存在する灯台を彩る



灯台に願いを ・ ・ ～灯台を結節点とした地域活性化～

灯台収益化
二次交通
閑散期対策
宿泊日数増加
地域売上増加



地域の誇り
↓
未来へ継承

観光客

観光事業者
観光業・交通業・宿泊業・飲食業

地域住民

事業名：能取岬灯台利活用プロジェクト



熱源となる人たち (核となる主体者)

(一社) 網走市観光協会

網走市の観光振興を目的とした組織。能取岬灯台コンソーシアムを立ち上げた組織であり、観光事業者、宿泊事業者、飲食事業者などの会員と連携し、当プロジェクトを中心となって推進する。



熱源を支える人たち (その他の主体者)

網走市観光課

網走市の観光振興を推進するにあたり、観光および幅広い視点による地域活性化と全体のバランスを図っている。観光協会の活動予算の支出元でもあり、連携した活動を行う。

北海道オホーツク総合振興局 産業振興部商工労働観光課

オホーツク地区の観光振興を推進している。能取岬は国定公園であることから、北海道が管理しており構築物を設置する際には制約を受けることから、連携した活動を行う。

北海道バリュースコープ株式会社

北海道の旅と遊びの専門サイト「ぐうたび北海道」の企画／運営および地域活性化事業（北海道内の観光地を中心とした地域活性化コーディネート事業）を行っており、アドバイザーとして参加していただく。



協力者

網走バス株式会社

札幌・網走間など都市間バス、網走市内地域交通を運行している。網走市街地から能取岬灯台への二次交通の担い手として、当コンソーシアムとともに実現可能性を探る。

株式会社地球の歩き方

海外旅行のバイブル「地球の歩き方」を発行するとともに、日本の魅力を海外へ発信するGOOD LUCK TRIPの運営も行う。国内外の旅行の知見を活かしてアドバイスをいただく。

紋別海上保安部

灯台一般開放など灯台を活かしたイベントを行う際に協力していただく。また、灯台活用時のアドバイスをいただく。

事業名：灯台に願いを ～灯台を結節点とした地域活性化事業～

新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、本事業は以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
✓	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

調査検証資料

基礎調査報告

能取岬灯台の基礎データ

項目	詳細
標識名	能取岬灯台（のとりみさきとうだい）
所在地	北海道網走市美岬
位置	北緯44度06分44秒、東経144度14分35秒
塗色及び構造	白地に黒横帯2本塗り 塔形
材質	コンクリート造
灯質	単閃白光
光りかた	毎8秒に1閃光
実効光度	110,000カンデラ
光達距離	約36km
灯りの高さ	地上から頂部: 21m 地上から灯火: 18.5m 水面から灯火: 57m
初点灯	1917（大正6）年10月1日
レンズ	LB-M30型灯器
電球	メタルハライドランプ（70ワット）
設計者	不明※ ※八角形の外観はフランスの技師レオンス・ヴェルニーが設計した江戸条約の灯台の影響を受けたとされる。



<参考文献>

紋別海上保安部,(2017),能取岬灯台内に設置の資料

能取岬灯台の歴史

明治時代（1868-1912）、根室の納沙布岬灯台と宗谷岬灯台との間には一切の航路標識がなく、航行は非常に危険な状況であった。明治中期に航行船舶が増加したことを受け、網走の高田亦次郎を中心として灯台建設の要望が出された。大正5年（1916年）に能取岬の断崖上で建設工事が始まり、翌年に竣工した。この灯台は、北海道における鉄筋コンクリート造の灯台としては最古のものである

年号	西暦	出来事
大正6年	1917年	10月1日 初点灯
大正14年	1925年	灯台塗色を白色から黒色横線塗に変更
昭和20年	1945年	太平洋戦争の空襲により灯台吏員退息所の屋根などに被弾
昭和28年	1953年	能取岬灯台と能取岬霧信号所を合併
昭和33年	1958年	能取岬と網走港の航路標識事務所が合併し、能取岬灯台の滞在勤務が始まる
昭和41年	1966年	石油発熱から電化するために自家発電装置を設置
昭和54年	1979年	灯台を全面改修（建て替え）
昭和55年	1980年	滞在勤務を廃止し無人化
昭和58年	1983年	機会改良改修（四等閃光レンズ設置）
平成元年	1989年	霧信号所業務廃止
平成8年	1996年	太陽電池装置を採用
平成29年	2017年	点灯100周年

<参考文献>

網走市史編纂委員会 編, (1971) 網走市史, 下巻, 698~703p
紋別海上保安部, 平成29年10月, 能取岬灯台内に設置の資料



高田亦次郎



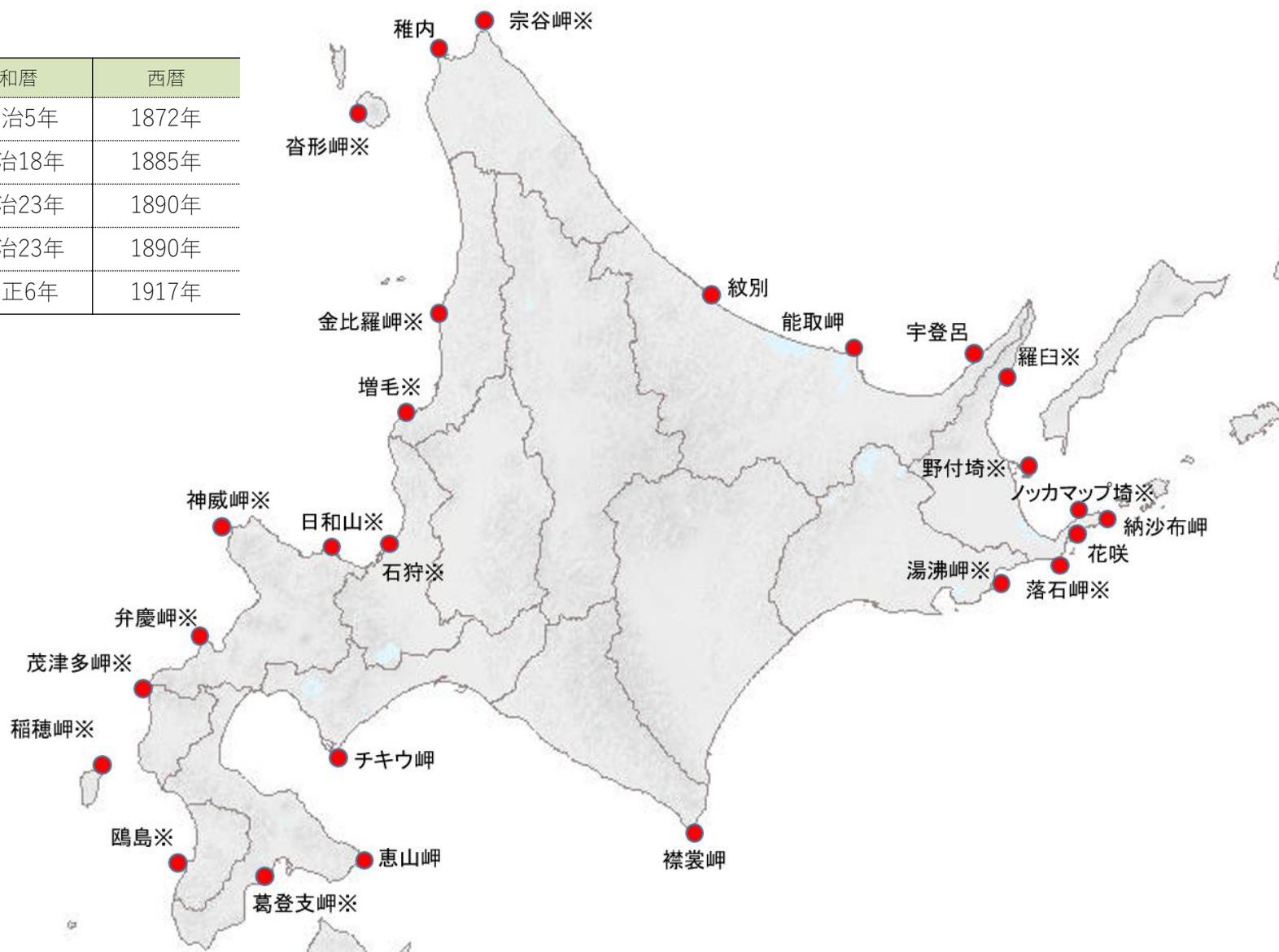


<参考文献>

紋別海上保安部,平成29年10月,能取岬灯台内に設置の資料

オホーツク海周辺の灯台点灯年月日

灯台名	初点灯日	和暦	西暦
納沙布岬灯台	7月12日	明治5年	1872年
宗谷岬灯台	9月25日	明治18年	1885年
落石岬灯台	10月15日	明治23年	1890年
花咲灯台	11月1日	明治23年	1890年
能取岬灯台	10月1日	大正6年	1917年



<参考文献>
海上保安庁, <https://www.kaiho.mlit.go.jp/soshiki/koutsuu/toudai/card/map01.html>

能取岬灯台の滞在勤務

1948年（昭和23年）までは、灯台守が家族と共に宿舎で生活していた。網走市街まで三里（約12km）の距離があり、夏は駄馬、冬は馬そりでの移動を余儀なくされたが、馬を提供してくれる人も少なかった。そのため、病気や出産など緊急を要する際には対応が極めて困難で、命を落とすケースもあった。

冬季の食料は9月までに準備を済ませる必要があり、12月から4月までの期間は、一人につき月1回の外出しか許可されなかった。

1958年から1980年（昭和33年-昭和55年）には、2名の職員が1週間交代で勤務していた。日中は機械の整備や灯台のレンズ磨きなどの作業のほか、敷地内の草刈りなども行い、滞在施設の維持管理に従事していた。灯台には電気が供給されていなかったため、日没時に自家発電機を手動で始動して灯台の灯りを点灯し、明け方に発電機を停止して消灯していた。電気が供給されていない状況下で、冷蔵庫は設置されていたものの、夜間の灯台点灯時に発動機を稼働させている間しか使用できなかった。水道も整備されていなかったため、井戸から汲み上げた水を濾過して飲料水として使用していた。

現在は無人化されており、明るさをセンサーで感知して8秒に1回の間隔で点灯している。

<参考文献>

紋別海上保安部,平成29年10月,能取岬灯台内に設置の資料



2017年 灯台100周年のイベント実施

2017年（平成29年）10月1日、能取岬灯台の点灯100周年を祝うイベントが開催された。灯台の歴史と重要性を広く市民に伝えることを趣旨とし、多彩なプログラムが用意された。当日は灯台の一般公開が行われ、巡視船「りしり」による体験航海も実施された。海上保安庁航空機の飛来もあり、来場者の関心を集めた。展示コーナーでは灯台の歴史に関するパネル展示やLED灯器の展示が行われた。また、制服試着や「うみまる」との記念撮影、100周年記念タオルの配布など、来場者が楽しめる企画も多数用意された。このイベントを通じて、多くの人々が灯台の役割と歴史について学ぶ機会となった。

項目	詳細
1. 公開日時	2017年（平成29年）10月1日（土） 午前10時から午後2時まで
2. 公開する施設及び展示内容等	
(1) 施設公開	灯台構内、管制器室、灯ろう、踊場
(2) パネル展示	能取岬灯台の歴史、灯台の歴史ほか
(3) LED灯器展示	
(4) ペーパークラフト展示	灯台及び巡視船等
(5) ビデオ放映	「海を照らす人」：灯台資料映像
(6) 制服試着記念撮影	
(7) 「うみまる」との記念撮影	
(8) 記念品等配付	100周年記念タオル、能取岬灯台絵葉書
(9) 海上保安庁航空機の飛来	午前11時ころ、午後1時ころ



<参考文献>

紋別海上保安部,平成29年10月,能取岬灯台内に設置の資料

能取岬灯台と網走の街の歴史と関係

年	出来事
縄文・オホーツク文化時代	能取岬遺跡、能取岬西岸遺跡など多数の遺跡が存在
1893年（明治26年）	能取村ノトロ(美岬)に原鉄二郎が牧場開設
1894年（明治27年）	日清戦争勃発（1895年終結）
1897年頃（明治30年頃）	野津陸軍大将が北海道民情視察旅行で能取岬を通過
1904年（明治37年）	日露戦争勃発（1905年終結）
1912～14年頃（大正1～3年頃）	能取岬で第七師団が機動演習を実施
1914年（大正3年）	第一次世界大戦勃発
1917年（大正6年）10月1日	能取岬灯台完成し初照射
1918年（大正7年）	第一次世界大戦終結
1937年頃（昭和12年頃）	「能取のサイレン霧の中」が郷土いろは歌留多に掲載
1939年（昭和14年）	第二次世界大戦勃発
1943年頃（昭和18年頃）	海軍見張り所、電波探知機の建設、水上飛行場建設など
1945年（昭和20年）7月15日	能取岬灯台がアメリカ軍機の銃撃を受けて被弾
1948年（昭和23年）5月1日	網走八景発表（能取岬が含まれる）
1949年（昭和24年）	第二次世界大戦終結、駐留軍が灯台前の原野に駐屯地建設
1955年（昭和30年）4月1日	市内美岬に航空自衛隊のレーダー基地設置
1958年（昭和33年）7月1日	網走国定公園指定告示
1964年（昭和39年）8月22日	市道網走～能取線(美岬ライン)道路改良工事竣工式
1973年（昭和48年）9月1日	能取岬にレストハウスオープン
1979年（昭和54年）	能取岬灯台が改築
1985年（昭和60年）2月1日	第1回オホーツク流氷のっとりランド網走が能取岬で開幕
2006年（平成18年）6月25日	道道76号網走公園線が開通
2015年（平成27年）9月27日	第1回オホーツク網走マラソン開催
2017年（平成29年）10月1日	能取岬灯台が初点灯から100年の節目を迎える

<参考文献>

網走市 企画課総務, 網走 市勢要覧資料編, (2022), 16p

網走市, 網走史年表, <https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/4/6424.html>

1917年（大正6年）の初点灯以来、能取岬灯台は網走の街と密接な関係を築いてきた。灯台建設以前から、能取岬周辺には縄文時代からの遺跡が存在し、古くから人々の生活の場であった。

1893年（明治26年）には牧場が開設され、その後、軍事演習場や見張り所の設置など、戦略的にも重要な場所となった。第二次世界大戦後、1948年（昭和23年）に能取岬は網走八景の一つに選定され、観光地としての価値が認められた。

1958年（昭和33年）には網走国定公園に指定され、その後、1964年（昭和39年）の美岬ライン開通により、アクセスが大幅に改善。1973年（昭和48年）にはレストハウスが開設されるなど、観光インフラの整備が進められた。

1979年（昭和54年）には灯台が改築され、白と黒の特徴的な外観が維持された。1985年（昭和60年）からは流氷のっとりランドの開催が始まり、2015年（平成27年）にはマラソン大会のコースに組み込まれるなど、網走の観光や文化の中核的な役割を担っていた。

能取岬の概要

網走市街の北、約10kmのところにある静かな岬。

能取岬は網走市の管轄であり、灯台敷地は海上保安部が管理している。地域にはもともと農業従事者が入植し、大正5年に開校した網走市立能取小学校美岬分校があった。

かつて能取岬には食堂や蟹の直売所があり、バックパッカー「カニ族」が集まる人気スポットであった。能取岬へ向かうルートに「オホーツク渚亭」に併設された水族館があったこともあり、たいへん賑わっていた時期があった。

現在は「あばしりオホーツクマラソン」のコースとなっている。また、1985年と1986年には「オホーツク流氷のっとりランド網走」が開催され、多くの入場者を集めた。

現在、岬一帯は市営美岬牧場として整備されており、5月中旬から10月中旬にかけて牛馬が放牧されている。牧歌的な風景と、夏季にはエゾカンゾウなどの花々も楽しめる別天地となっている。網走方面から能取岬へ向かう美岬ライン沿いにはキタキツネが生息しており、時折その愛らしい姿を見せる。冬から初春にかけては流氷の展望スポットとしても注目を集めており、能取岬周辺の岩礁地帯はアザラシの生息地としても知られている。

<参考文献>

網走市観光協会. 網走市観光公式サイト, <https://visit-abashiri.jp/scenery/b1b92ba8835b04de0cdaf87843cb6d0769a68f3d.html>
網走市商工労働観光課, 2024/7/11にヒアリング



能取岬の地形と地質

地理的な特殊性

オホーツク海は、東から北にかけて千島列島とカムチャッカ半島、北をシベリア大陸、西北部を沿海州とサハリン島、南を北海道に囲まれ、太平洋や日本海とは隔てられた、まるで大きな湖のような海域である。能取岬の先端は20m以上の急崖に囲まれており、その土台は主に1000万年前（新第三紀）の火山噴出物で構成されている。このことは、1000万年前のこの場所に海底火山が存在していたことを示している。また、溶岩の上層には火山灰が堆積しているが、これは屈斜路カルデラの火山活動による噴出物が到達したものである。

海底で形成された地層が、現在の高台を形成している理由

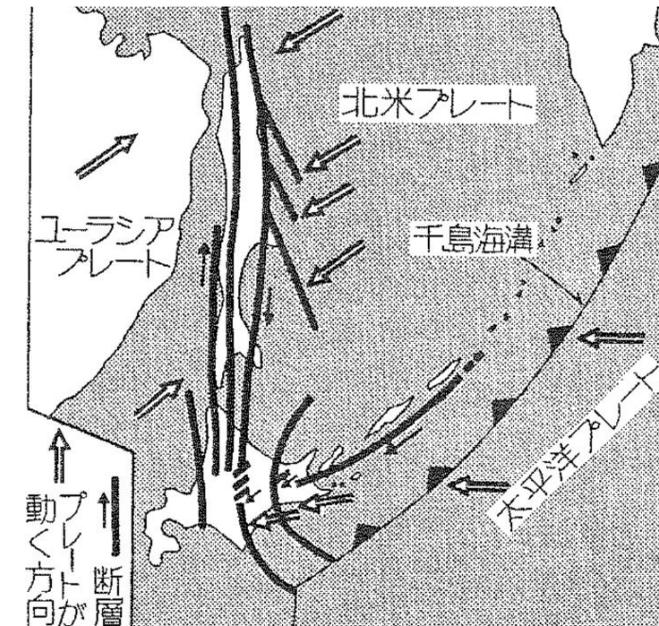
地層の隆起により岬が形成されたと考えられる。北海道は東方から太平洋プレートが沈み込む場所に位置し、沈み込まれる側のプレートが現在も強い圧力を受け続けている状態である。この地殻変動は1000万年前（およそ1100万年前）から顕著になったとされており、能取岬の形成もこの運動と密接な関係がある。

隆起の速度について

能取岬周辺は約30万年前から急激な隆起が始まったと考えられる。周辺地域と比較すると、最大100m以上の隆起差が見られる。隆起速度は平均して1万年あたり3mと推定される。縄文時代（紀元前10000年～紀元前300年頃）には海水面が現在より高かったため、最も温暖であった時期には、能取岬は現在ほどの標高には達していなかった可能性が指摘されている。

<参考文献>

財団法人北方文化振興協会,北海道立北方民族博物館友の会,(2012),北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌「Arctic Circle(アークティック・サークル)」
北の文化シンポジウム実行委員会編,環オホーツク海文化のつどい報告書



オホーツク人とシャーマン

オホーツク人の信仰とクマ崇拝

オホーツク人の精神生活に関しては、シャーマンが存在し、ブタ・イヌの飼育が行われていたにもかかわらず、クマに対する崇拝が根強くあったといわれている。

呪術的道具としての牙製女性像

オホーツク文化の中で最も呪術的な道具として考えられたものに、牙製の女性像がある。そこに彫られた衣装には、鈴や鐸（たく）、帯飾りが付けられており、集落内のシャーマンを表したものと考えられている。これらの像は、弁髪を結び、スカートを履き、前かがみで手を組むなどの特徴から、北アジア地域の古代文化の信仰習俗との結びつきがあると考えられている。

クマの牙偶とアイヌ文化への影響

動物の意匠を表した多くの骨偶、特にクマの牙偶は、胴部に見られる眼帯がサハリンアイヌのクマ送り儀礼用のものと酷似しており、アイヌ文化の精神世界がオホーツク文化から強い影響を受けていると考えられている。

オホーツク文化の変遷と伝播

オホーツク文化は、呪術的な信仰深い社会を基盤に、シベリアのアムール河流域を源として、サハリンで成立した。そこから海岸沿いに再び南下してモヨロに到達し、擦文文化との接触の中で消滅しながらも、アイヌの精神世界の中にその姿を伝えていった様子が跡付けられている。



<参考文献>

北海道立北方民族博物館. 2024/7/11にヒアリング

北海道博物館協会学芸職員部会,湧別町ふるさと館JRY・郷土館 学芸員 林勇介,(2014),オホーツク文化の骨角器—レプリカの活用—【コラムリレー第33回】 <https://www.hk-curators.jp/archives/2076>

株式会社ノーザンクロス,北海道マガジン「カイ」,(2020),https://kai-hokkaido.com/archives/feature_vol46_sidestory3-2/

オホーツク文化とクジラ

オホーツク文化と海洋生活の証左

オホーツク人が海にかかわりの深い生活を送っていたことは、オホーツク文化の骨角器の内容、動物意匠遺物のモチーフ、遺跡の分布などから論じられている。銚頭や骨鋏などの遺物が豊富であることから狩猟が盛んであったと推測され、動物意匠遺物のモチーフの比率では、クマが半分以上を占める一方で、海獣は2割強、魚は3.5%となっている。

動物意匠と北方民族の観察力

サーフィンをするクジラの様々な動きを描き出した利尻島亦稚遺跡出土のトナカイ角彫刻にみられるような写実的な動物意匠は、北方民族に共通するものであり、北方地域の厳しい自然の中で狩猟生活を行うことで養われた観察力を反映したものとされている。

狩猟・漁撈場面の描写

動物意匠遺物の中には狩猟・漁撈の場面そのものが描かれた資料もいくつかみられる。例えば、根室弁天島遺跡や樺太鈴谷貝塚出土の鳥管骨製の針入れには、人間の乗った船とクジラの線刻がみられ、両者が銚縄を表したとみられる線でつながれていることから、銚による捕鯨の場面を描いたものとされている。このことは、オホーツク人が寄りクジラの利用に留まらず、船からの銚猟による積極的な捕鯨を行っていたことを示している。



オホーツク人がなりわいとしていた捕鯨の様子が写実的に刻まれた針入れ。針入れは長さ8・3センチ。4本の銚（もり）が鯨に刺さる様子が刻まれ、うち2本は舟とロープでつながり、もがく鯨に射手が、今まさに「止め矢」を撃ち込まんとしている。6人のこぎ手も4本の櫂（かい）を握って射手の一撃を待つ、というストーリー性満載の彫刻が施されている。

<参考文献>
北海道立北方民族博物館. 2024/7/11にヒアリング

東京大学文学部常呂実習施設 考古学研究室 熊木俊朗・福田正宏 編／オホーツクの古代文化 東アジア世界と北海道・史跡常呂遺跡(新泉社),(2024),54~74p

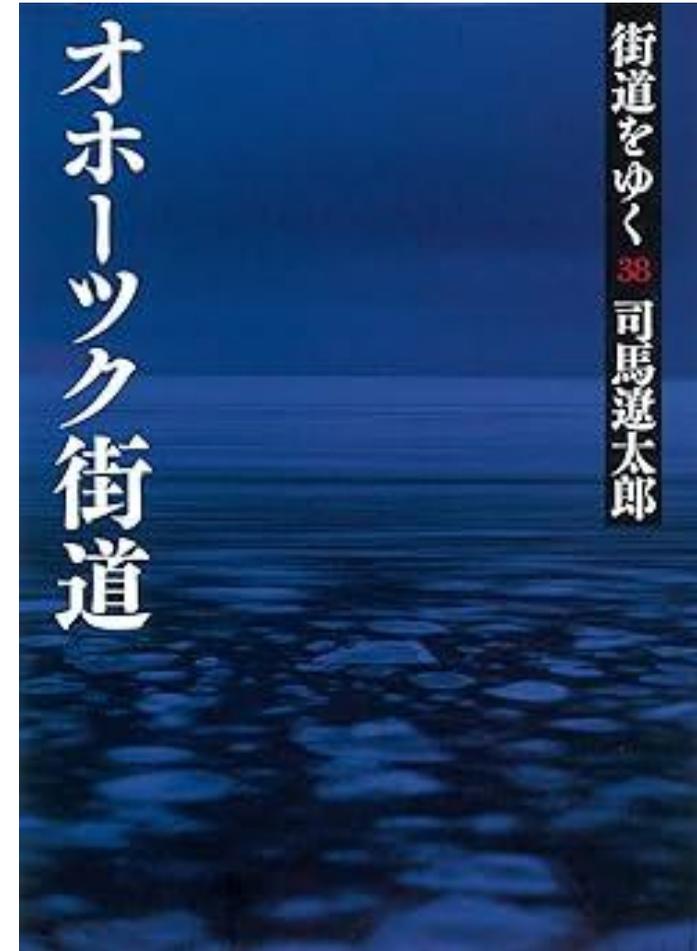
司馬遼太郎「オホーツク街道」より

すぐれた巫女（シャーマン）は、女性としての出産機能を終える年齢のときに神懸かりになるといわれる。また女性であることが始まる十四、五のときも、触れれば光でも出そうなほど鋭敏になり、しばしば神懸かりに入り、予言やら何やらをする。この婦人像のポーズは、予言をしているのではないか。胸のあたりのかぼそさからみて、十六、七の娘ではないかと思える。もしそうなら、一、二年もすれば瘡が落ちたように憑依能力が消え、ただの人になる。だからこそ盛りの年齢のその姿を骨にきざんで永遠にとどめ、困難なときには守り神にしたのだろうか。この像は高さわずか十三・八センチメートルである。でありつつ、自然なエロスを感じさせる。（217p）

モヨロ貝塚のヴィーナスに関しては「筒袖にワンピースという婦人服」に注目し、「服装史」の観点から中央アジアや北アジアに淵源するのではないかと推測している。

この牙偶（がぐう）が着ているような婦人服は、モンゴルにも固有満洲の民族にも沿海州のツングースにも、また中国の西北のウイグルにも民族服としてのこっている。第一、網走で自分の民族の婦人服をせっせとつくっては収蔵したり、展示したりしている北川アイ子さんのウイルタ（オロッコ）服もそうである。

（218p）



<参考文献>
司馬遼太郎,街道をゆく 38 オホーツク街道,(1993),217~218p

幻のオホーツク人が残した“ヴィーナス”

モヨロのビーナスの出土

モヨロ貝塚から出土した「モヨロのビーナス」こと「マッコウクジラ歯製女性像」は、ワンピースのような服をまとい、ゆるやかに腕を曲げた姿で神秘的な印象を与えるものである。

司馬遼太郎の印象と考察

司馬遼太郎は著書「オホーツク街道」において、写真で見た「礼文島（れぶんとう）のヴィーナス」や「モヨロ貝塚のヴィーナス」と呼ばれる「オホーツク文化の婦人の姿を牙に刻んだ彫像」が脳裏を離れないと述べている。

シャーマン像としての解釈

礼文島のヴィーナスに関しては、古ヨーロッパの地母神（ちぼしん）ヴィーナスとは異なり、シャーマンであろうと想像されている。しかし司馬は、同じシャーマンでもシベリアの少数民族のシャーマンとは異質な「静けさ」に注目し、独自の解釈を試みている。



<参考文献>
北海道立北方民族博物館. 2024/7/11にヒアリング

東京大学文学部常呂実習施設 考古学研究室 熊木俊朗・福田正宏 編／オホーツクの古代文化 東アジア世界と北海道・史跡常呂遺跡(新泉社),(2024),54～74p

司馬遼太郎,街道をゆく38 オホーツク街道,(1993),217～218p

能取岬周辺の遺跡

能取岬の段丘の海岸寄りにはオホーツク文化・擦文文化の遺跡が多く、山側に行くにしたがって、それよりも古い縄文の遺跡が多く確認されるようになる。縄文時代に能取岬に住んだ人々はあまり海には依存していなかったのかもしれない。

遺跡名	位置	特徴
能取岬遺跡	標高約40mの能取岬先端、現在美岬灯台のある西側	公園・駐車場となっているため確認できないが、チャシがあり、遺物が採集されたという。
NM-02遺跡	標高約40mの海岸段丘上	縄文時代中期の土器片、石器等が採集された遺物散布地である。
能取岬西岸遺跡	標高約40mの海岸段丘上	平成8年度に当館で発掘調査を実施。1982年の調査で縄文時代中期から擦文・オホーツク文化期の土器、石器、骨角器、鉄鍋、動物遺存体などが採集され、崖面に竪穴住居址が確認されている。
NM-11遺跡	標高約40mの海岸段丘上	続縄文時代の土器片とともに小貝塚、竪穴が確認されている。



<参考文献>

北海道教育委員会,教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 文化財調査係,北の遺跡案内
<https://kitano-iseki.maps.arcgis.com/apps/webappviewer/index.html?id=748430b778a04092afe4c92656474bec>

能取岬の観光

能取岬の観光的価値

能取岬灯台が立つ能取岬は、その風光明媚（めいび）な景色からこれまで幾度もテレビCMや映画のロケ地になっている。昨今は中国の恋愛映画にも登場するなど、今や国内外を問わず網走観光の定番スポットとして欠かせない存在となった。

映画ロケ地としての実績

映画『南極料理人』（堺雅人主演・沖田修一監督）、中国で大ヒットを記録した映画『非誠勿擾（フェイ・チェン・ウー・ラオ／If You Are the One）』（邦題『狙った恋の落とし方。』）のロケ地となっている。

オホーツクの塔の概要

灯台からさらに海岸段丘上につけられた道を歩くと本郷新の「オホーツクの塔」が配されている。高さ10mのコンクリート製による二本の柱と、3mの漁民の像、そしてその上の鮭との構成で、昭和53年に建立された。碑文には、「百余年の苦難をこえて培われたオホーツク沿岸漁業は、海洋法の制定など国際情勢の変化に伴って、新しい時代を迎えるに至った。ここに開拓先人の業績を讃えると共に、その霊を慰め、水産日本の発展を希求し、この塔を建立する。」とある。

関連作品の展示場所

漁民の像と鮭のエスキース（実物制作前に作成される縮小サイズの作品）は、それぞれ「大漁」と「オホーツク海」のタイトルのブロンズ像として、網走市立美術館の前庭に置かれている。



<参考文献>

網走市,網走市観光公式サイト「おいしい街あばしり,ロケ実績・ロケ地ガイド」
<https://visit-abashiri.jp/abashirilocation/>

網走周辺の漁業・農業

網走漁港の水産物の特徴

網走漁港では、北海道で獲れるサンマ以外のほとんどの魚種が水揚げされている。網走の特産は、シジミ、シラウオ、カラフトマス、釣きんき（メンメ）が挙げられる。また毛ガニ、タラバガニ、ズワイガニなどカニも豊富である。ニツ岩の近くではウニ漁も行われている。



能取岬周辺のホタテ養殖

能取岬の先に潮通しが良い水深30mの砂場があり、ホタテの養殖が行われている。能取岬より南側ではホタテの育ちが悪く、地形が関係していると考えられている。



網走の農業生産

麦類、甜菜（てんさい）、馬鈴薯（ばれいしょ）の基幹作物を中心に大根、長いも、ゴボウ、ニンジンなどの野菜類を栽培している。二条大麦の生産量は北海道で1位である。道内随一の行者菜（ぎょうじゃな）生産地でもある。3月下旬に種芋を植え約130日で澱粉となる、澱粉原料用のじゃがいもを栽培している。



<参考文献>

網走市 農林水産部 水産漁業課, 2024/7/11にヒアリング
網走市 農林水産部 水産漁業課, 水産統計, (2023)
網走市 農林水産部 農林課, 農業統計, (2023)

国定公園による制約

能取岬は国定公園のため、構造物などを設置する際は北海道による許認可が必要である。2024年6月19日、2024年12月19日に北海道オホーツク総合振興局保健環境部環境生活課を訪問し、許認可について説明を伺った。

1. 仮設工作物や簡易的な工作物の場合

- ・ 許認可は北海道オホーツク総合振興局が管轄である。
- ・ 能取岬内でエリア区分されており、1種（崖の部分）など上位になるほど許可は厳しくなり、実質許可できない。
- ・ 3種は許可しやすく、申請書に修正がなければ2週間ほどで許可が下りることがある。
- ・ 鐘、ホタテ貝の絵馬の棚、ポスト、スマホ台は全て工作物にあたる。
- ・ 看板は広告物にあたる。
- ・ 工作物は色（灰白系または焦げ茶系）のみ可能、高さは3m位までならおそらく問題ない。
- ・ 広告物は大きさが問題になることがある。
- ・ 今回のケースでは、オホーツク総合振興局で対応可能と思われる（最終確認は札幌になるが、振興局でまとめられる）。

2. 建築物などの場合（能取岬園地事業にあたる）

- ・ 許認可は札幌の部署が管轄である。
- ・ 土地の所有者の確認も必要である。牧場のところは個人所有、駐車場付近などは網走市、その他は森林管理所の所有となる。

ストーリー作りのヒント

能取岬灯台利活用のストーリーのヒント

- ・イルカやクジラが海遊する海が見える
- ・冬にはオホーツク海が流氷で埋め尽くされる
- ・クリオネというオホーツクのマスコットの存在がいる
- ・オホーツク人という日本人とは違う文化を持った民族がいた
- ・オホーツク人がいた頃からクジラ漁が行われていた
- ・オホーツク人は巫女（シャーマン）の文化があり占い、祈祷、呪詛などを行った
- ・クジラの骨で作った女性像が発掘されていて「ビーナス」と呼ばれている

キーワード

流氷、クジラ、オホーツク文化、巫女、祈祷、ビーナス、

オホーツク海

流水

オホーツク人がやってきた道
航路？

クジラ

日本においては「漁業の神」「水の神」として神格化されてきた。クジラ類を「エビス」と呼び、クジラを恵比寿の化身や仮の姿として神格化してきた。

⇒神様、祈りをささげる対象

オホーツク人

北方からやってきた海洋狩猟民族。
5世紀ころに現れ9世紀ころに突如姿を消す幻の民族。クジラ漁をしていた

巫女 (シャーマン)

儀式や手段を用いてトランス状態に入り、
自然界の神や霊と交信する役割を担う人
⇒誰かの思いをかなえる場所、誰かの思い出をつないであげる場所

モヨロのビーナス

シャーマン文化を想起させる、クジラの牙製の女性像。ビーナスは先史時代の地母神、豊穡と生殖にかかわる古代の女神。多くの場合キューピッドを伴った裸体の女性として表現される。

⇒美の象徴。恋愛の神キューピッドを引き連れる

巫女 (= ビーナス) : 自然や神と交信

灯台

航路標識

⇒ **情報や指示を与える**

巫女の役割 ≡ 灯台の役割

灯台を船だけではなく、
ここに立ち寄った人の思いをかなえるために導いてくれる場所として定義

クジラ ≡ ビーナス

神として信仰の対象だったクジラ、その牙で作られた女性像（ビーナス）を
思いをかなえる象徴として定義

能取岬灯台を、

旅人の願いをかなえる場所として定義した仕掛けを考える

願いを届ける場所（手紙を送る、絵馬のようなものを飾る）

約束をする場所（愛の南京錠）

北海道内・道外視察

石狩灯台・厚田展望台（北海道石狩市）

道の駅石狩「あいろーど厚田」厚田展望台

厚田展望台は、あいろーど厚田から坂を登ったところにある。中世のお城のような石造りの展望台からは、目の前に日本海が広がり、夕日が海に沈み、付近に街明かりが少ないことから夜景もきれいとのことである。

また、恋人の聖地として、南京錠やプレートをかけるラックが設置されている。

道の駅「あいろーど厚田」にて、南京錠、ラヴァーズプレート、恋人証明書、石狩灯台お兄さんグッズなどが販売されている。

石狩市街地方面からあいろーど厚田方面に向かってくると、この先には目立った店がないことから道の駅としての利用が多く、展望台まで登る人は限られる。

以前つけた南京錠にさらに重ねて鎖にしてくなどリピーターもいる。

ライダーや一人で来る方も多い



所感

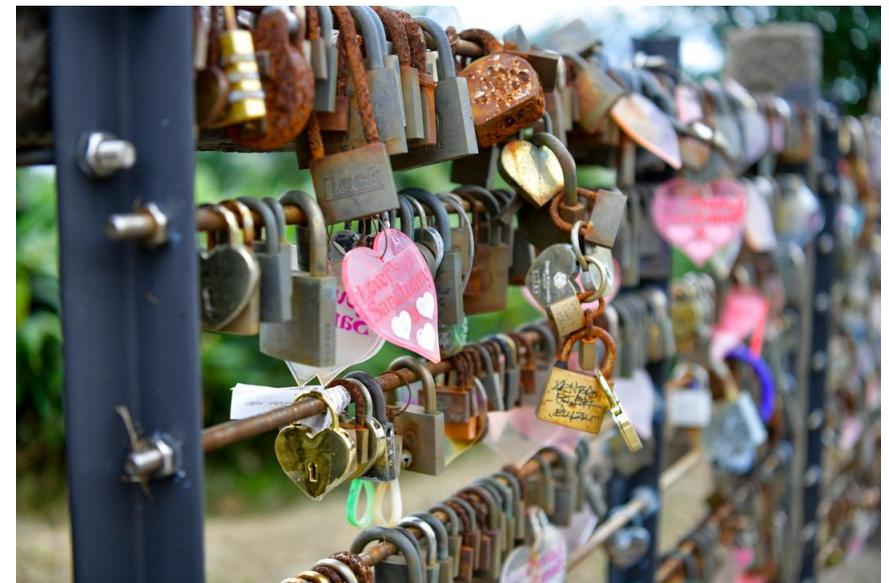
南京錠、ラヴァーズプレート、恋人証明書、石狩灯台お兄さんグッズなどバリエーションに富んだグッズが参考になった。

能取岬でも一人で来ても複数人で来ても楽しめるように、海をバックにしたフォトフレームを作ってみるのがいいのではと思う。（時間によって景色の色が変わりそうな場所に設置することでリピーターを狙いたい。

ブランコ型で海に向かって漕ぎ出すようなフォトジェニックな写真が撮れるなどの工夫をしたい。

厚田展望台では、思い思いの南京錠がつけられていることから、カラフルな大きさやタイプ別南京錠も魅力的である。

南京錠の売上の粗利は僅かとのことであった。街から離れているという似た環境の能取岬でも、南京錠で収益を図るのは難しいのではという話になった。収益を上げるには、工夫した仕組みが必要である。



石狩灯台

石狩灯台では年に3回イベントを行い（5月こどもの日、6月はまなすが咲く、10月灯台の日前日）、1日200名程灯台内に入場してもらっている（入場料無料）。海上保安部より認可を受け（航路標識興梶紀団体）灯台の鍵を受け取っている。入館料も取れるが収支報告をする必要がある。

石狩灯台お兄さんの人気が高く、ボールペンやTシャツなどのグッズ販売も行なわれている。灯台お兄さんは、海上保安部より長年灯台を守った人として名誉灯台長と認められており、キャラクターに与えられたのはお兄さんが初めてでその後取材なども増加した。

季節によって景色が著しく変わり、四季折々の魅力を楽しむことができる。

ビジターセンターで石狩灯台の歴史を学ぶことができる。展示されている歴史等のボードは、ガイドボランティアが作成した。



所感

灯台お兄さんはユニークさを表現できる人格があってこそ成り立っていると感じた。プロモーション手法として大変参考になった。

航路標識協力団体や灯台一般開放には魅力を感じる。今後実現に向けて検討したい。

ライトアップイベントに魅力を感じるが、能取岬では虫が多く難しいとの意見があった。しかし、10月、11月なら虫も減るため、寒いが可能ではないかと考える。

季節に合わせたイベントにも魅力を感じるが、網走では祭りに関するイベントが既に多数あることから、街から離れた場所で新たなイベントによる集客は容易ではないと考える。イベントよりも構築物を常設し、常に観光客を楽しませる仕組みが重要と考える。

また、インフラの関係（上下水道なし、電気なし）で飲食店の出店も容易ではないため、キッチンカーなどでの飲食物販売の可能性を探りたい。



もいわ山展望台（北海道札幌市）

もいわ山展望台

藻岩山は夏季の客が多く、冬季はロープウェイ等運休になることもあり客は減少する。道外客が多く、続いて海外、札幌市民は一桁%と少ない。

2012年にリニューアルし恋人の聖地として認定され、当時はカップルや夫婦が増えた。

2015年に（一社）夜景観光コンベンションビューローが認定する「日本新三大夜景」に札幌が選ばれ、来訪客が増加した。

札幌のゆるキャラ「もーりす」はジンギスカンの「ジンくん」の工房アルティスタに依頼した。

平日昼の来評者が少ないため、年間パスポート（大人3,300円）などで集客を狙っている。また、縁日などのイベントも行なっている。

南京錠について、昔のカギを見つけて欲しいと言われることがあるが、運用上困っていることはほとんどない。

体験価値を提供している（二人で南京錠を付け、鐘を鳴らし、写真を撮る）



所感

ロープウェイ、ミニケーブルカー、グッズ販売、レストラン、南京錠販売、景色を楽しむ撮影をするなど、それぞれで楽しんでもらい、全体で収益を上げることができるため、ビジネスモデルとして大変優れていると感じた。体験価値（鍵、鐘、撮影）を提供しているというところを常に意識したい。グッズの完成度が高く知床トコさんのようなブランド力があるように感じた。知床トコさんはAOAO SAPPORO（水族館）にも展開している。能取岬収益化として、ブランド力とデザインの応用がきくグッズを作成し、売り上げの一部を岬の環境保全や維持するなどサステナブルな仕組みを作りたい。グッズ化が成功すれば、能取岬のPR効果もあると考える。

南京錠は自動販売機で購入できるため、旅行者目線では有人の売店で買うよりも購入しやすいし、販売者目線でも省力化によるコスト削減に繋がる。レストランで限定メニューを頼んだ場合のみにももらえる特別カラーの南京錠もあり、気軽に楽しみたい客層と意味のある思い出をしっかりと残したい客層どちらにもマッチしている。

モノ商品というよりコト商品であり、体験を売っている点がとても参考になる。

スタンプラリー開催し、割引やノベルティを付けている点が参考になる。



恋路ヶ浜と伊良湖岬灯台（愛知県田原市）

幸せの鐘

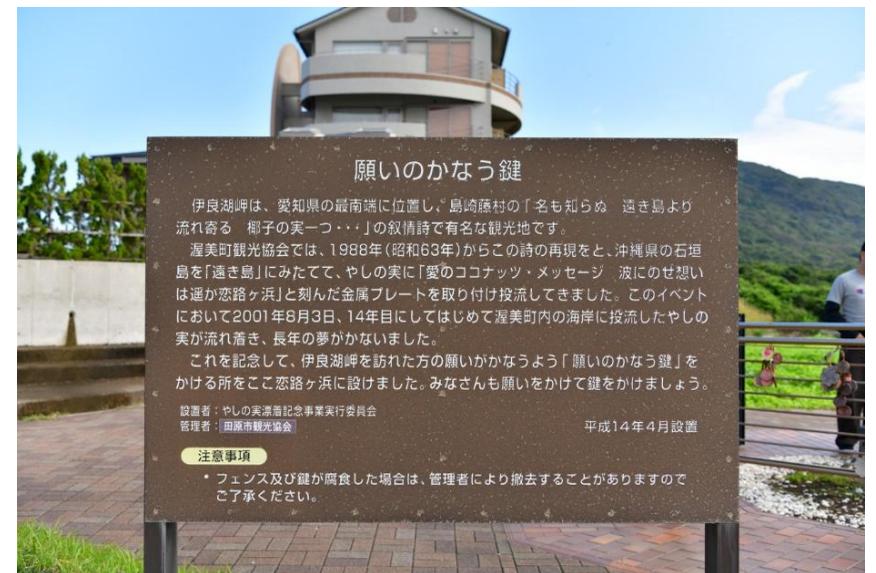
平成16年頃に恋路ヶ浜が恋人の聖地に認定されことから、以前から存在した門型の額（写真撮影のフレームを想定している）に鐘を付け、「幸せの鐘」とした。

「椰子の実」のストーリー

「椰子の実」は、柳田國男が恋路ヶ浜に流れ着いた椰子の実の話を島崎藤村に語り、藤村がその話を元に創作・執筆した詩。（名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実一つ・・・）

昭和63年（1988年）から詩の再現をと石垣島を遠き島とみたと、石垣島で椰子の実を毎年100個投流し始め、2001年に初めて渥美半島に流れ着いたが、恋路ヶ浜にはまだ流れ着いていない（主催：渥美半島観光ビューロー）。

椰子の実にはプレート（3000円）が付けられ、日本全国に漂着しており、流した人と実を拾った人の対面が行なわれている。



願いのかなう鍵

平成17年に鍵を作り直した。当時は機運が高まっておらず観光ビューローでのみ鍵を扱っていたが、中日の落合監督が鍵とメッセージを付けて有名になり、店でも扱ってくれるようになった（現地の5店舗）。その後、観光ビューローでは販売せず店に任せており、鍵は880円で販売している。

クローバーと想い石

クローバーは四葉～七葉があり、一人ひとつ持ち帰ってよいことになっている。また、「想い石」があり、想いを念じて軽く持ち上がると想いが叶うという。

伊良湖岬灯台

駐車場がある「幸せの鐘」から透き通った海を見ながら海岸線と遊歩道を歩くと、10分程で灯台に到着する。景色が良く、温暖な気候も手伝い恋人同士で散歩するには最適な環境にある。小さな灯台ではあるが、デザインも洗練されており周辺遊歩道も整備され、モニュメントとしても存在感がある。今回は時間は合わなかったが、夕方の時間帯の夕日がとても綺麗とのことである。



その他

- ・ 菜の花祭りは「幸せの黄色いポスト」から伊良湖神社でご祈祷を受けた「まじない葉」（200円）というポストカードを投函できる。
- ・ ポストは、郵便局で余っているものを譲り受ける事ができる。ポストは色の変更をしても、郵便局が認めればポストとして機能する。
- ・ 食べ物を加えるとテレビ局も取材に来る。食の組み合わせが大切（メロン狩り、いちご狩り）。
- ・ 交通の便は悪いが美味しいものがあると客は来る。

所感

- ・ 柳田國男が恋路ヶ浜に流れ着いた椰子の実の話を島崎藤村に語り、藤村がその話を元に創作・執筆した「椰子の実」。詩を再現し石垣島で椰子の実を毎年100個流すイベントはとても興味深く、ストーリーの大切さを学ぶことができた。
- ・ 写真撮影、鐘、鍵に加え、想い石やクローバーを持ち帰ることができるなど、楽しめる要素が複数あり参考になる。
- ・ 郵便局より不要なポストをいただける可能性があるということで、能取岬にも活用できそうである。
- ・ 能取岬でも灯台にまつわる飲食店でのメニューなどを考えておりぜひ推進したい。



ツバスの鐘・磯笛岬展望台（三重県志摩市）

ツバスの鐘

看板より、

「ツバスとはブリの稚魚の幼名で、ブリは成魚になるまで呼び名が変わり、スズキ、ボラとともに縁起の良い出世魚といわれ、この鐘を鳴らすことにより出世、幸運をもたらすことでしょう。」

アッパ貝（ヒオウギ貝）は養殖の方に無料でいただいている。貝は障がい者施設の方に綺麗にさせていただき、穴あけ、紐付けも依頼している。

運用上の問題点として、お金を払わない人がいるが90%程の人は払ってくれる。以前は料金箱からお金を盗られたこともあった。

歌手の西野カナさんが来訪し話題になりバズった。プロモーションは特段行っていない。

磯笛岬展望台

昔、海女さんがいた頃は磯笛が聞こえて来た。それに倣い、展望台に人が来るとセンターが反応しスピーカーから磯笛を鳴らしていたが、今は磯笛も鳴らしておらずスピーカーも外されている。



所感

以下3つより、ローコストオペレーションが可能となり、非常に参考になった。

- ・貝の洗浄、穴あけ、紐かけなどを障がい者施設の方をお願いすることでコストを低く抑えている。障がい者施設でも作業を行うことを快く思っているようで、win-winの関係とのことである。

- ・貝の販売は料金箱を用意し、無人販売を行なっている。

- ・貝を掛ける棚について、自前でコンクリートの基礎を作り、角材の柱にホームセンターで売っているような棒を梁にしており、コストを極限まで抑えている。

- ・能取岬で無人販売を行う際は、料金箱の盗難対策は重要である。貝については、原価を非常に低く抑える事ができれば多少の盗難等は問題にならないと考えている。

- ・貝を網走神社で祈禱するなどすれば、神聖なものとして盗難等も抑止効果があると考えられる。

- ・有名人による拡散は効果的である。映画等撮影や流氷まつりのアーティストなどにも積極的に能取岬に来てもらいたい。

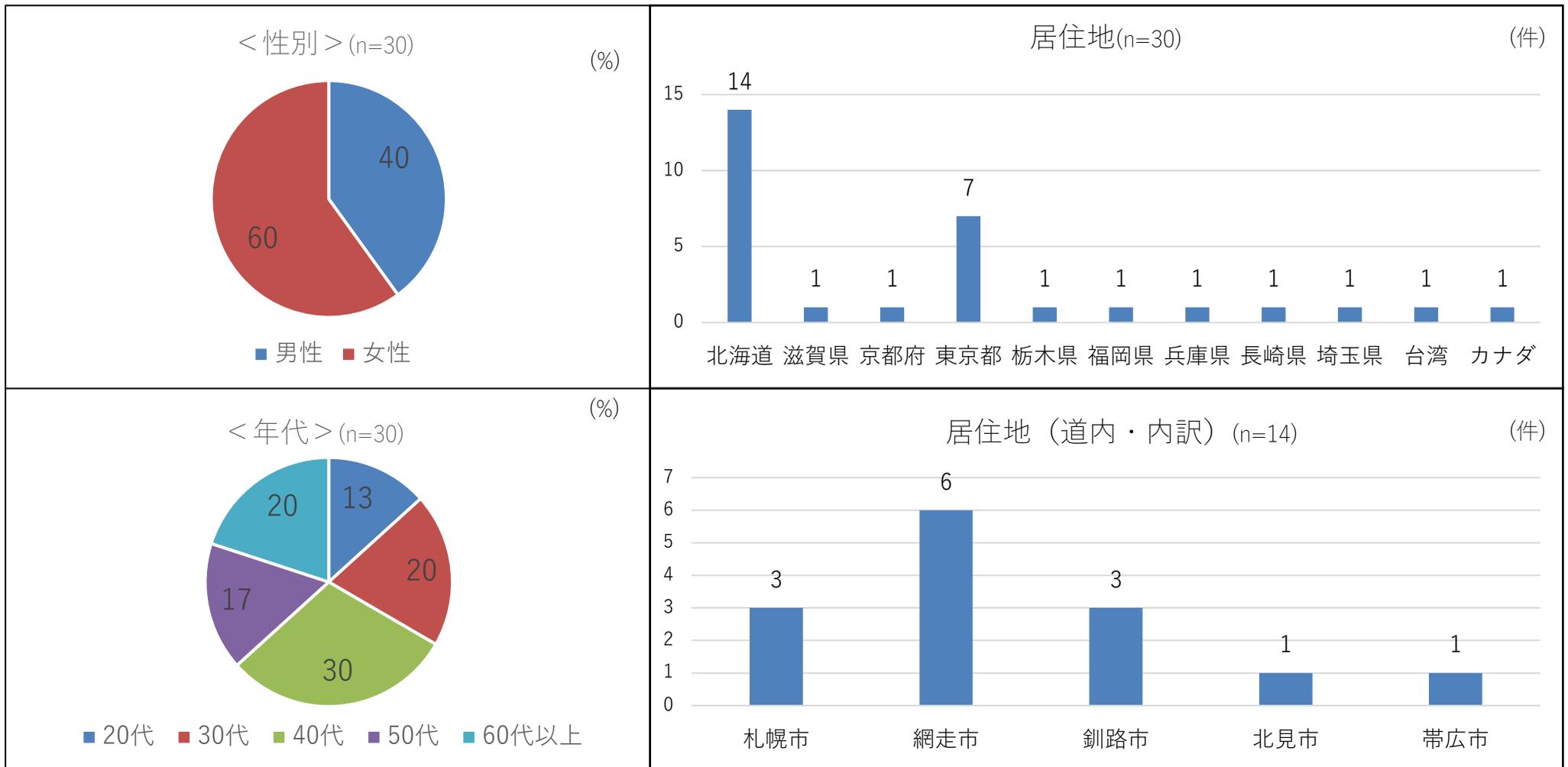
- ・出世魚と鐘・鍵のストーリーも土地と合っており面白い。

- ・全国の鐘を見ると、藻岩山を含め金属フレームのものも多いが、能取岬の過酷な立地を考慮して、腐食しにくい金属やコンクリート製を検討する必要がある。



ヒアリング調査報告

- ・ 調査方法：店頭調査 正確に意見をくみ取るため、アンケートではなくヒアリング調査を行った
- ・ 調査対象：網走市の観光案内所（道の駅流氷街道網走および網走駅構内）へ来所された一般のお客様
- ・ サンプル：道内客14サンプル、道外客14サンプル、海外客2サンプル
計30サンプル
- ・ 調査期間：2024/11/15～2024/12/27



アンケート調査シート

能取岬灯台アンケート調査

■ お客様情報

性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 未回答
年齢	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60歳以上 ()
お住まい	都道府県・道内の場合は市町村 () もしくは <input type="checkbox"/> 答えたくない

■ 能取岬について

能取岬灯台の認知	<input type="checkbox"/> 知っている <input type="checkbox"/> 知らない <input type="checkbox"/> その他 ()
訪問回数	() 回行った または <input type="checkbox"/> 行ってない
同行者	<input type="checkbox"/> 一人 <input type="checkbox"/> 友達 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 恋人 または <input type="checkbox"/> 答えたくない <input type="checkbox"/> その他 ()

■ 能取岬に設置する鐘・ホタテ絵馬について

鐘：感触	<input type="checkbox"/> 興味ある <input type="checkbox"/> 興味はない
前問の理由	()
ホタテ絵馬：感触	<input type="checkbox"/> 興味ある <input type="checkbox"/> 興味はない
前問の理由	()
建造物等の意見	() または <input type="checkbox"/> 思いつかない

■ 能取岬の交通について

現状の交通の便：「バス」は通っていないため、「自家用車」「レンタカー」「自転車」「タクシー」
タクシーについては、往復交通費および待機料金は合計して10,000円ほどかかる。

現状の交通の便について聞き、それでも行きたいか	<input type="checkbox"/> 行きたい <input type="checkbox"/> 行かない
交通の便が改善した場合行きたいか	<input type="checkbox"/> 行きたい <input type="checkbox"/> それでも行かない

交通費のお値段感	<input type="checkbox"/> () 円 または <input type="checkbox"/> わからない
ホタテ貝の絵馬のお値段感	<input type="checkbox"/> () 円 または <input type="checkbox"/> わからない

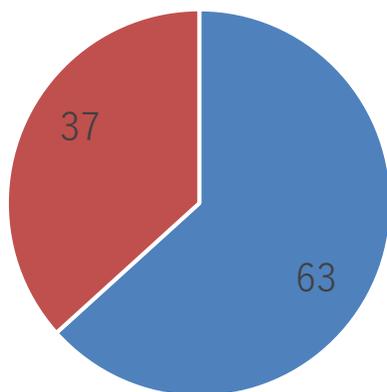
※能取岬灯台について

灯台に登ってみたいか	<input type="checkbox"/> 登ってみたい または <input type="checkbox"/> 興味はない <input type="checkbox"/> 登ったことがある
能取岬の夜景について	<input type="checkbox"/> 見たことある <input type="checkbox"/> 見たことない <input type="checkbox"/> 見てみたい
灯台との写真（意見）	
その他意見	

1. 能取岬灯台の認知度

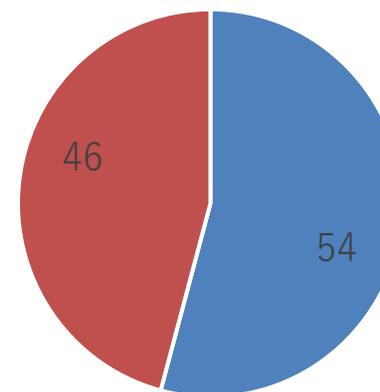
- 能取岬灯台について「知っている」と回答された方の割合は63%となっている。
また、網走市在住者6名は全員知っていることから網走市在住者を除いた場合の「知っている」と回答された方の割合は54%となる。

能取岬灯台を知っているか(n=30) (%)



■ 知っている ■ 知らない

(居住地が「網走市」以外) (n=24) (%)



■ 知っている ■ 知らない

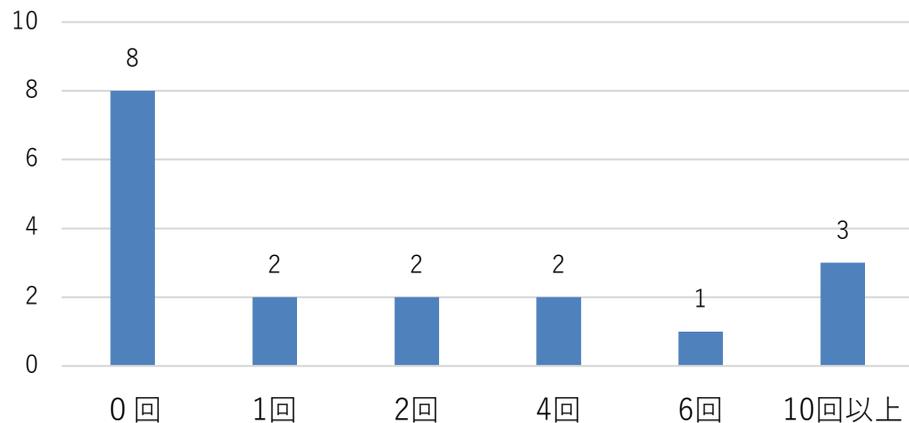
2. 能取岬灯台を知っている方の訪問回数および同行者

- ・能取岬灯台を知っている方のうち55%は能取岬灯台へ訪問経験あり。
- ・同行者は家族が50%と一番多く、次点で一人旅が23%である。

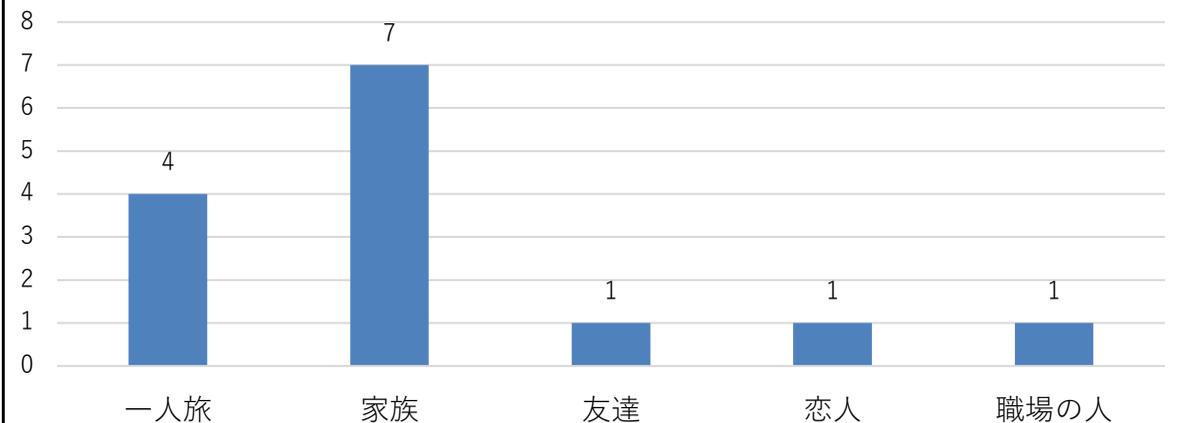
<所感>

- ・能取岬灯台へ行ったことがある回答者では、1回のみでの訪問ではなく複数回訪問している方が多かった。初めて能取岬灯台へ行くきっかけ作りのため新しい取組による誘客を狙っていきたい。
- ・「友達」「恋人」と能取岬灯台へ行ったことがある回答者はそれぞれ1件のみだったため、「願いを叶える」というテーマや願いを叶える鐘およびホタテ貝の絵馬により、カップル等にも興味を持っていただけるようにしていきたいと思う。

能取岬灯台への訪問回数(n=18) (件)



灯台能取岬への同行者(n=14)※複数回答あり (件)



※未回答を除く

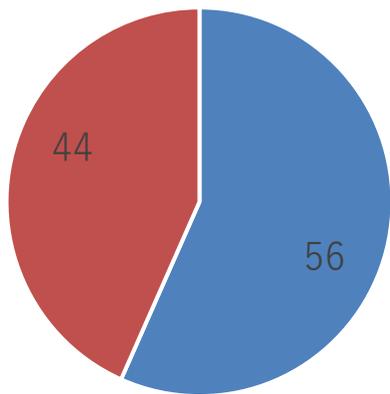
3-1 「願いを叶える鐘」 および「願いを書くホタテ貝の絵馬」についての反応①

- ・「鐘」と「ホタテ貝の絵馬」について、それぞれ興味あると回答された方の割合はどちらも56%であった。
- ・「鐘」または「ホタテ貝の絵馬」どちらかに興味がある方の割合は63%であった。

<所感>

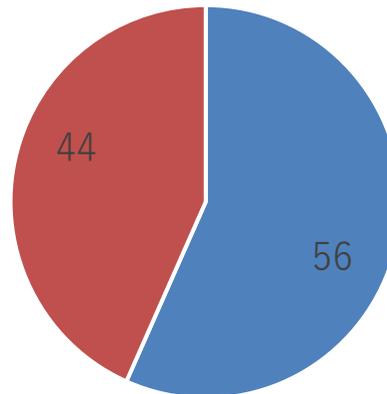
- ・「鐘」「ホタテ貝の絵馬」といった新しい物に対するの関心の声は多く、大自然の中で願いを込めて鳴らす鐘はポジティブな感想が多かった。
- ・ホタテ貝の絵馬も個性的というコメントがあり、観光客の目を引き楽しんでもらえるような可能性を感じた。また、景観に関して懸念する声もあったため、自然や景観を大切にしたい建造物のデザインが必要である。

「願いを叶える鐘」への興味(n=30) (%)



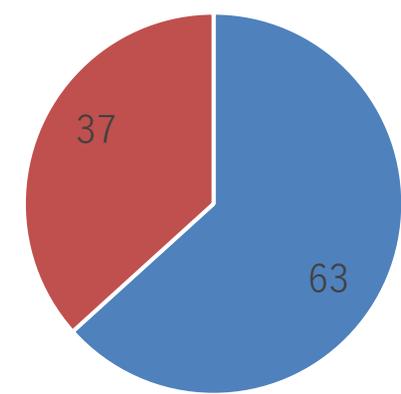
■ 興味ある ■ 興味はない

「願いを書くホタテの絵馬」への興味(n=30) (%)



■ 興味ある ■ 興味はない

鐘とホタテ貝の絵馬どちらかに興味ある (n=30) (%)



■ 興味ある ■ どちらも興味はない

3-2 「願いを叶える鐘」 および 「願いを書くホタテ貝」 についての反応②

なぜ「興味がある」と回答したのか。

願いを叶える鐘へのコメント

- ・今までなかったものなら見てみたい
- ・楽しみが増えそうだから
- ・今ほとんど何もないのなら何かはあった方が良さそうだから
- ・鐘があると嬉しい
- ・美しいから
- ・あれば見てみたい
- ・よく行く場所なので新しいものが出来たら気になる
- ・若者が喜びそう。

願いを書くホタテ貝の絵馬へのコメント

- ・楽しそうだから
- ・ホタテ貝というのが面白い
- ・若者が喜びそう。楽しいことならある方がいい。
- ・ホタテに願いを書くのは楽しそう
- ・個性的だから。

3-2 「願いを叶える鐘」 および「願いを書くホタテ貝」についての反応③

なぜ「興味がない」と回答したのか。

願いを叶える鐘へのコメント

- ・人工物があまりない自然を見たい
- ・近くに來たら行きたいが、わざわざは行かないかもしれない

願いを書くホタテ貝の絵馬へのコメント

- ・ホタテ貝の絵馬に願いを書いたり飾ったりはしないが、見る分には楽しいかもしれない
- ・人は集まると思うが自分は興味が無かった

<所感>

- ・新しい物に対しての関心の声は多く、大自然の中で願いを込めて鳴らす鐘はポジティブな感想が多かった。ホタテ貝の絵馬も個性的というコメントがあり、観光客の目を引き楽しんでもらえるような可能性を感じた。また、景観に関して懸念する声もあったため、自然や景観を大切にしたい建造物のデザインが必要である。

4. 建造物の意見

現在、能取岬には建造物が少ない為、能取岬にどのような建造物があれば嬉しいかを伺った。

- ・ 食べ物を売っている店
- ・ ビジターセンター、年間通して楽しめるもの
- ・ 休憩できる場所。風よけできる場所。
- ・ お土産屋さん
- ・ 休憩所
- ・ 岬の端っこにガラス張りのカフェ（海を見ながら）
- ・ カフェ等くつろげるところ
- ・ 彫刻などのアート系オブジェ
- ・ 自販機
- ・ バーベキュー会場
- ・ ブランコ
- ・ 写真撮影用の台
- ・ 写真フレーム
- ・ 写真展示場所

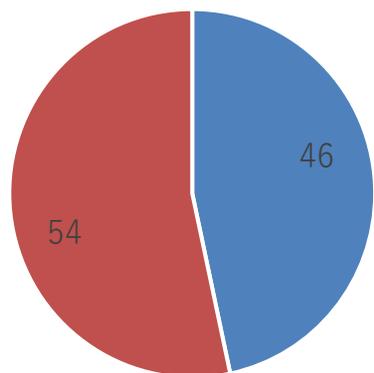
<所感>

- ・ 写真を撮影や展示をするための建造物の意見と、食に関する施設の意見が多かった。
食については能取岬灯台の白黒カラーをイメージさせるソフトクリーム等、岬や灯台の特徴と関連付けることで能取岬独自の演出が出来ると思う。

5. 二次交通について

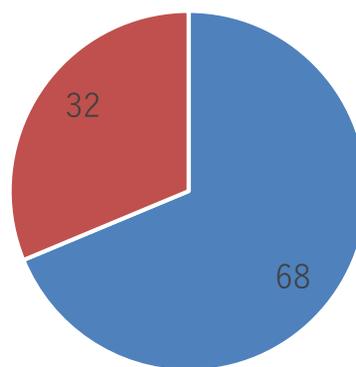
- ・ 網走市街から能取岬への交通手段は自家用車、タクシー、自転車等限られているため、それでも能取岬へ行きたいかという質問に対し、「行きたい」が46%と半数を割った。
- ・ 前述の質問で「行かない」と回答した方のうち68%は、二次交通が充実すれば行きたいとのことだった。
- ・ 二次交通を充実させれば83%は「行きたい」となる。

網走市街と能取岬間の交通手段が限られているが、それでも行きたいか。(n=30) (%)



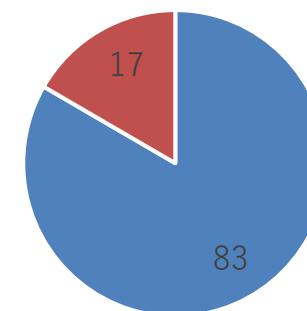
■ 行きたい ■ 行かない

二次交通が充実すれば行きたいか(n=16) (%)



■ 行きたい ■ 行かない

二次交通が充実した場合の能取岬へ「行きたい」割合(n=30) (%)



■ 行きたい ■ 二次交通が改善しても行かない

6. 「網走市街と能取岬間の往復交通費」のお値段感

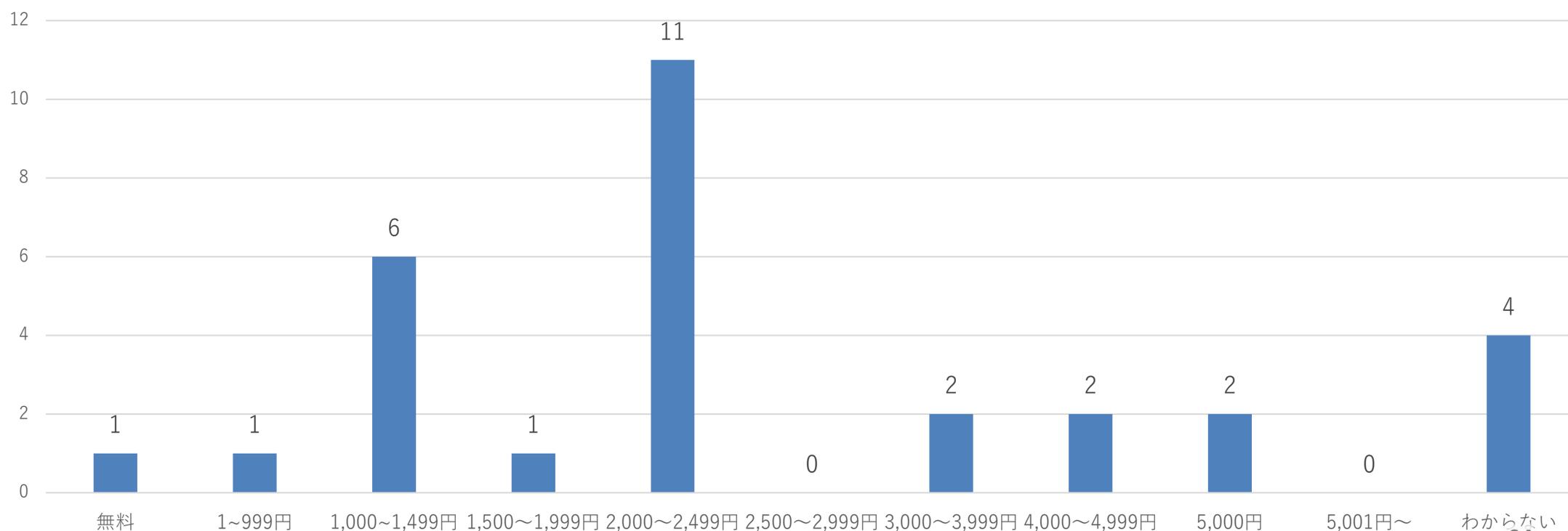
- ・往復交通費5,001円を超える回答は無く、回答の76%は2,500未満であった。
- ※現在、タクシーを利用した場合の往復交通費（待機料金含む）目安は10,000円ほどとなっている。（2025/1/21現在）

<所感>

- ・交通手段としてタクシーを利用する場合、網走市街と能取岬間の実際にかかる交通費は回答者が感じる費用感よりも高価に感じてしまう。交通の便が良くなれば能取岬へ「行きたい」と思っていただけの方の割合は多くなるため、二次交通の充実は重要な課題であると感じた。

網走市街ー能取岬 往復交通費のお値段感(n=30)

(件)

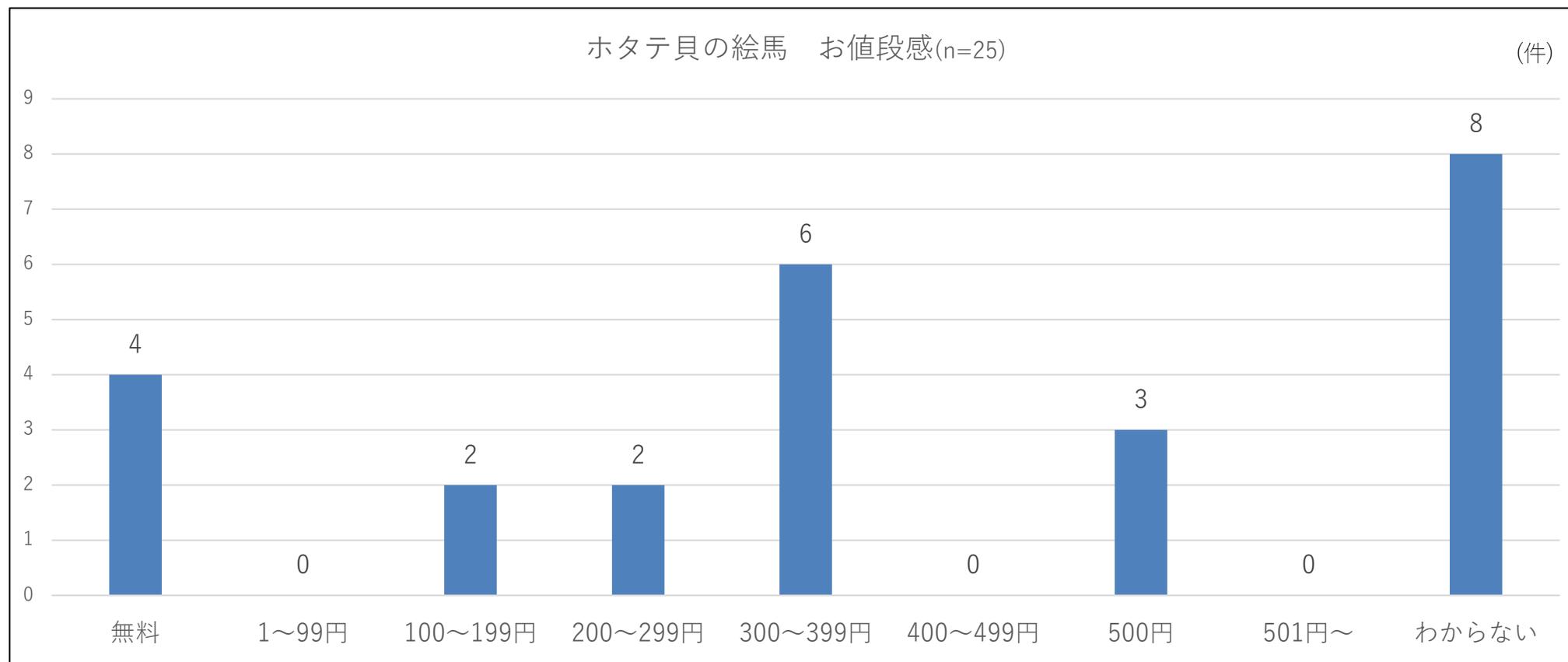


7. 「願いを書くホタテ貝の絵馬」に対するお値段感

- ・「ホタテ貝の絵馬」の販売価格について単価501円以上の回答は無かった。

<所感>

- ・回答結果から、ワンコインで購入できるような低価格設定が適切であると感じた。



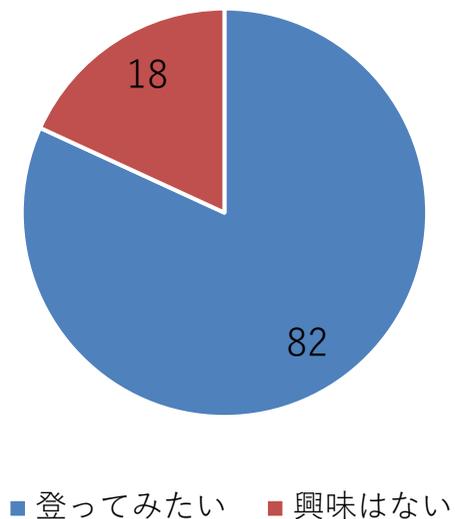
8. 能取岬灯台の解放（登ってみたいか）について

- ・能取岬灯台へ登ってみたい方の割合は81%である。
- ・能取岬灯台へ登ったことがある方は1名であった。

<所感>

- ・能取岬灯台に登ってみたい方の割合が多かった為、能取岬灯台を開放する機会を増やすことは灯台の魅力をより知っていただいたり、実際に来ていただいたりするためにも有効な方法だと感じた。

能取岬灯台について(n=22) (%)



年に1度の能取岬灯台解放日には、多くの人が訪れている。

※登ったことがある、未回答を除く

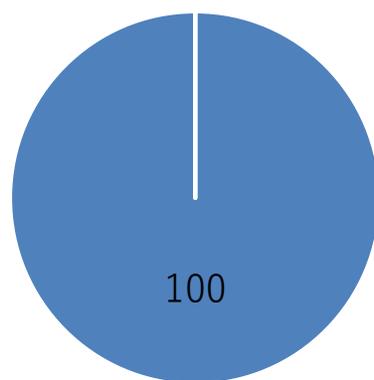
9. 能取岬の夜景について

- ・能取岬の夜景を見てみたい方の割合は100%であった。
- ・能取岬の夜景を見たことがある方は4名であった。

<所感>

- ・能取岬の夜景は回答者の属性問わず興味を示していた。能取岬および能取岬灯台をより興味をもってもらう為には、能取岬の夜の星空や海を照らす能取岬灯台の魅力を合わせて発信していくべきだと感じた。

能取岬の夜景について(n=19) (%)



■ 見てみたい ■ 興味はない



※見たことがある、未回答を除く

10. 能取岬灯台との写真アイデア

- ・海から写真が撮れたらいいなと思う
- ・灯台をつまんだり手に乗せたりしているような写真は撮ってみたい
- ・北海道らしい写真を撮りたい（灯台の横に牧草ロールやトラクターなど）
- ・海と一緒に撮りたい。 ・推しキャラ（ぬいぐるみやアクリルスタンドなど）と撮りたい。
- ・綺麗な景色と一緒に撮りたい ・ドローンなどで空から撮りたい

11. その他の意見

- ・灯台に行く途中にも立ち寄るコースがあればいい。
- ・岬の形のクッキーを作ってはどうか。
- ・建築物を作るときは景色を壊さないようにしてほしい

<所感>

- ・能取岬および能取岬灯台の景観はポジティブな感想が多く、能取岬灯台を組み込んだ写真撮影のアイデアも様々なコメントを聞くことが出来た。写真の展示やSNSなどを利用した写真コンテストを企画することで、より多くの方に能取岬および能取岬灯台を知っていただけたらと思う。

ファムトリップ
（モニターツアー）

第1回ファムトリップ

能取岬灯台プロジェクトにおいて、設置する構造物の方向性が決まりつつあるため一般の方を対象に体験していただき、意見を聞くモニターツアーを開催する事とした。現状、構造物が存在せず実物がイメージしにくいこともあり、また観光地についての知見がある方からの意見を積極的に取り入れたいため、ファムトリップとしての位置づけとした。

構造物は、「願いを叶える鐘」と「ホタテ貝の絵馬」である。

今回は20代前半札幌在住（旅行雑誌営業職）の女性に現地を案内し、疑似的に鐘をならし、ホタテ貝の絵馬に願いを書いていた。

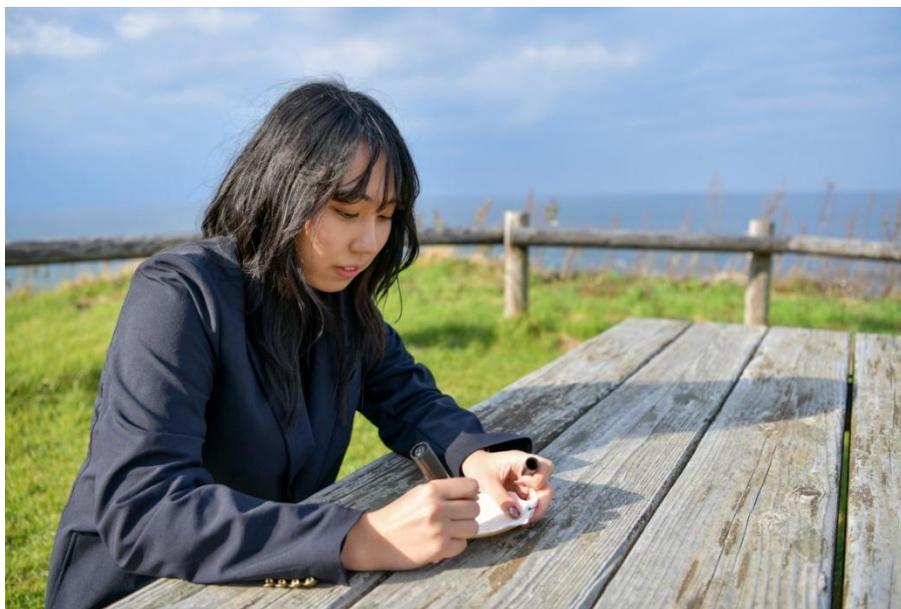
<参加者意見>

・以前一度能取岬灯台に行ったことがあるが、今回初めて奥の方まで案内されて散歩する事で崖の風景を見ることができた。案内がないと灯台周辺から奥まで行かないため、周遊案内があると良いと思った。

（観光バスでの団体客も灯台周辺から奥へ行く人はほとんどいなかった）

- ・風が強く街よりも寒く感じる。
- ・以前夏に来た時に、草が多くてあまりあまり歩き回らなかったが、今回は目立たない。
- ・鐘やホタテ貝の絵馬と一緒にここでしか撮れない写真を撮りたいので、背景も慎重に選んで欲しい。海、灯台、崖と灯台の景色のところに魅力を感じた。
- ・ホタテ貝に文字を書くときにテーブルなどが必要。
- ・ホタテ貝は300円なら購入したいし500円位までなら可能。1000円は高く感じる。
- ・願いを叶える、願いを届けるなどのコンセプトも面白いし、彼氏や友人と来たい。
- ・友達にも勧めたい。流氷の時期にも来てみたい。

- ・有名人がホタテ貝の絵馬をかけると、そのファンが聖地として訪問すると思う。有名人の絵馬を探し出して写真を撮りたい。
- ・交通費について、市街中心部から往復800円～1200円ほどであれば許容範囲だと思う。（1500円は少し高いような印象を受ける）
- ・車内での過ごし方については、歴史ストーリーに関する映像などが流れていると、歴史的な要素も感じつつ岬を楽しめると思う。ただ、20分ほどの所要時間であれば、移動時間を苦痛には感じないため恋人や友人たちとのおしゃべりを楽しむのも良い。



<所感>

- ・今回は、札幌在住の20代女性の意見を聞いたが、興味・関心度合いは高かった。若年層の網走への来訪が比較的少ないため、新たな層の来訪開拓につなげることができるポテンシャルを感じた。
- ・見所（写真撮影スポット）マップ・案内のようなものもあると思う。
- ・現在夏季に市により2～3回の草刈りが行なわれているが、観光に問題が無いか調査が必要。
- ・現地に屋根付きテーブルがあるため、利活用できるか調査が必要である。ホタテ貝の無人販売を行うとしたときにも屋根は必要である。
- ・以前から有名人にホタテ貝の絵馬を書いて欲しいという意見が内部から出ており、ロケとして使用してくれたときに積極的に参加を促したいと考えていた。プロモーションとして有名人を誘致することは費用的に難しいと考えられるが、効果は絶大と考えられる。問題点としては、有名人が書いた絵馬が特定できてしまうと盗難などの問題が発生する可能性があるため、無記名が良いと考えられる。
- ・交通費の費用感については、あまり高く設定できない印象を得た。同乗者を増加させて低料金にしたり、乗車の付加価値を上げる（乗車自体を楽しむ工夫）必要もあると感じた。

第2回ファムトリップ

・今回は20代前半旭川在住（旅行代理店勤務）の女性に現地を案内し、灯台を背景に写真撮影、疑似的に鐘を鳴らし、ホタテ貝の絵馬に願いを書いていた。

当日は天気に恵まれ、知床連山を見渡すことができ、また澄んだ海を見ることができた。

<参加者意見>

- ・能取岬の大地、白黒の灯台、澄んだ海、知床連山、常呂方面の風力発電、どれもとても素敵なので、多くの人に知ってもらいぜひ来て欲しい。
- ・アクセスの交通費については、送迎だけなら往復1000円だと気軽に行く事ができる。最大1600円位までなら行ってみたい。
- ・ホタテ貝の絵馬も面白い。本州の人にはホタテ貝も珍しいと思う。500円位なら行なってみたい。最大700円位までで、1000円だと高過ぎる。
- ・灯台に登れるなら登ってみたい。
- ・灯台を使って色々なポーズで写真を撮るのも面白い。映える撮影スポットが示されていると良い。JALのCMで嵐がロケ地として使用していたが、その時のポーズも面白いので活用できそうである。
- ・嵐など有名人を使ったプロモーションは効果がある。
- ・富良野のニングルテラスは、インフルエンサーに取り上げられて一気に人気が出たので、インフルエンサーの活用も有効である。
- ・紋別のカニのハサミのように、大きなホタテ貝があれば一緒に写真を撮りたい。
- ・友達と来たい。
- ・コーヒーなどが飲めると良い。



<所感>

- ・今回は、旭川在住の20代女性の意見を聞いた。若年層に関心を持ってもらうことで話題性にも繋がり、SNS等を通じて拡散効果が高いと考えている。今回も興味・関心度合いは高かった。
- ・天気が良く、空気が澄んでいる時期でもあったため、森を抜け、見通しの良いところから灯台が見えると、盛んに綺麗と言っていた。広い大地にポツンと灯台があり、澄んだ海、知床連山や常呂方面の風力発電を見てとても感動していた。
- ・前はどんよりと曇り、空も海も灰色で視界も良くなかったが、今回は天気が良いことで観光地としての魅力もとても高く感じていただけた。

- ・灯台を絡めた写真撮影では、アイデア次第で色々面白い写真を撮ることができると感じた。イベントとして、灯台と共に面白いポーズを撮影し、XやInstagramに投稿するコンテストなども面白いと思う。面白いポーズの一例として、灯台をつまむ、灯台を掌に乗せる、灯台を食べるなどである。
- ・ホタテ貝の絵馬も楽しんでいる様子だった。
- ・コーヒーを飲みたいという意見があったが、夏ではソフトクリームなど冷たいものの飲食が求められると考える。キッチンカーの活用に向けて許認可関連の調査を行ないたい。
- ・先日タイ出張に行った際に、仏教寺院を訪れた。そこでは、ドラムや複数の鐘、人工プールでの灯籠流し、布へ願い事を書く、祈る、頂上からは見晴らしの良い景色が広がっている、寺院の周辺には屋台が取り囲んでいる。寺院なので宗教的に利用する人が大半ではあるが、人々が本能的に楽しむ要素が取り込まれていると感じた。つまり、音を鳴らし、祈り、願いを書き、高いところから景色を見下ろし、飲食するというものである。こういった要素を観光地に持たせることで、人々は自然とそのような行為を行い、親しみを持つものと思う。

収益性調査

ここでは、直接的な収益事業であるホタテ貝の絵馬販売の収益を算出する。

1. 現在の能取岬灯台への来訪者数

網走市観光課のデータより35,821人（2023年度）

※実数のカウントではなく主要観光地の来訪者数から係数をかけ算出している。

2. 事業後の来訪者数

ヒアリング調査より「鐘とホタテ貝の絵馬どちらかに興味ある」と回答した人は63.3%であった。

よって、現在の来訪者のうち「鐘またはホタテ貝の絵馬」に興味ある人が新たに来訪すると仮定すると、

事業後の来訪者数 = 35,821人 × 163.3% = 58,495人

3. 購入数

札幌藻岩山の利用者数、南京錠販売数から南京錠購入者の割合を算出し、当事業ではホタテ貝ということ考慮し、3.8%程と仮定する。

ホタテ貝の絵馬販売数 = 58,495人 × 3.85% = 2,250個

4. 利益

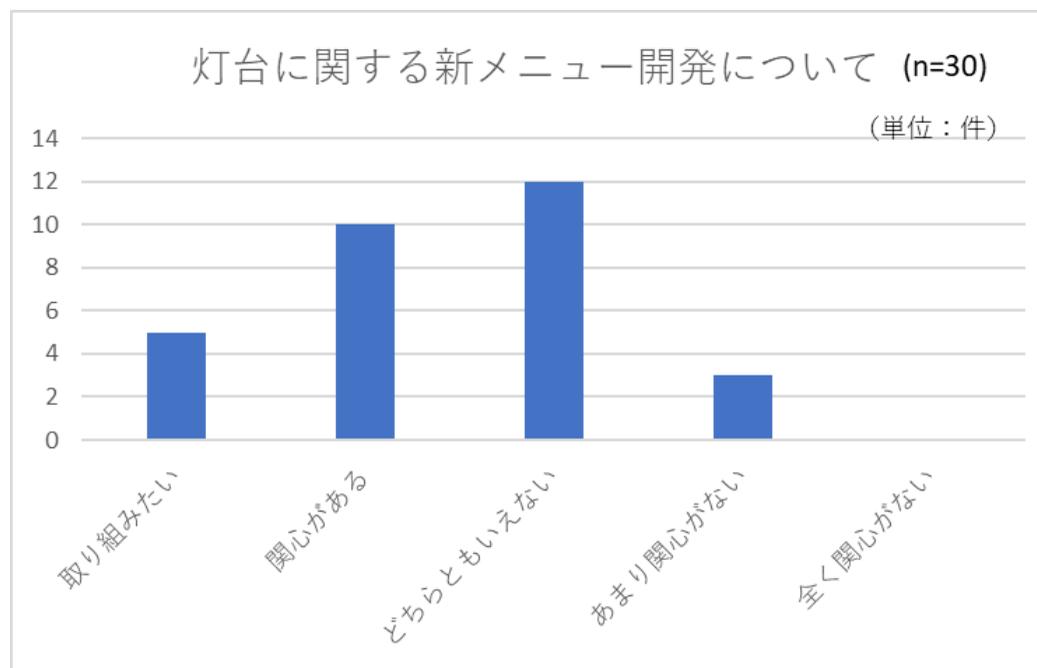
原価80円、売価500円

利益 = (500円 - 80円) × 2,250個 = 945,000円

灯台関連商品化アンケート調査

現在網走市内には、流氷をモチーフとした「流氷カクテル」や「流氷お好み焼き」、ホタテ貝をモチーフにした焼き菓子、ニポポ人形をモチーフにした蒲鉾などが存在している。

そこで、当事業において地域事業者へも灯台効果を波及するため、当事業の概要説明とともに灯台をモチーフにした商品開発への取組み意欲をアンケート調査した。今回は飲食店のみに限り30店を対象とした。



<所感>

灯台をモチーフにした新メニューは、灯台観光と飲食店とのプロモーションが相乗効果を生むことから効果的な施策と考えている。

取り組みたいと回答をいただいたのは5件であり、関心があるを含めると15件（50%）が関心を持っているという結果になった。

どちらともいえないが12件と多いことから、今後当事業内容の詳細や新メニュー開発の効果について更に理解を深めていきたい。

また、飲食店に限らず土産物屋などにも対象を広げ、地域全体で灯台効果を盛り上げていきたい。

二次交通調査

現在、網走市中心部から能取岬への公共交通機関はなく、自動車（自家用車、レンタカー、観光タクシー（およそ9,000円））またはレンタサイクルでのアクセスに限られている。よって、航空機（女満別空港）、JR、都市間バスなどによる網走訪問者にとって能取岬はアクセスしにくく、訪問の機会損失が発生していると言える。また、能取岬灯台への観光客を増加させるには、魅力的なコンテンツ造成と二次交通が両輪になる必要があると考えている。

そこで、網走市内で地域交通バス、地域観光バス、オンデマンドバス（通称どこバス）を走らせている網走バスに協力していただき、二次交通の実現可能性を調査した。

判明したこと

- ・地域観光バスは、網走監獄博物館、オホーツク流氷館、北方民族博物館の三大博物館やフラワーガーデンはなてんとなど観光コンテンツが充実している経路を走っているため、ある程度の乗客数が担保できているが、それでも閑散期は補助金が必要な状況である。市街地から能取岬へバス・どこバスを走らせるとなると、運用の補助金補填が必要である。

試算

費用の明細は公開できないため、オンデマンドバスについての考え方を以下に示す。

- ・片道25分、能取岬で30分程待ち、復路も乗せるのが現実的である
- ・1日最大でも5往復ほどが限界である
- ・費用から1日に必要な乗車数を算出し、相乗りが必要である（1便4名×5便は必要）

これらより、オンデマンドバスではなく定期運行バスが現実的であると言える。

大型バス（4便）の場合、1便最低5.6人必要との試算であり、小型の定期運行マイクロバスが最適と思われる。マイクロバスについても、キロ単価は大型バスと同様に試算しているとのことであった。

対策として、季節の繁閑に合わせて運行回数の増減を図る。また、網走市の宿泊税の徴税が2026年4月から始まり、2026年より観光に活用できるため二次交通への適用を視野に入れたい。

所感

地方は自家用車が普及し、また人口減少も進んでいることで、JRやバスなど公共交通機関の収益性は厳しく、観光利用においても同様であることを実感した。厳しいのは公共交通機関のみならず、全国各地の地方経済が人口減少と共に危ぶまれているのが実態である。網走においても、漁業、農業が盛んではあるが、付加価値の高い工業やサービス業が少ないことから、観光による地域振興も重要となっている。

問題も多いが、魅力的な観光地作りとそれを核に有効活用し、入込増加を図り、観光施設、交通機関、宿泊施設、飲食店の活性化を図りたい。能取岬灯台の有効活用はその第一歩とも言えると考えている。

経済波及効果調査

能取岬灯台への来訪者が増加することで、ホタテ貝の絵馬の購入や二次交通の利用、また宿泊業、飲食業、土産物販売などへの消費へ繋がるとともに、間接的に農業・漁業、飲食料品などへも波及すると考えている。

そこで、総務省が提供している経済波及効果計算ツール「産業連関表」から新規需要の発生による地域経済への波及効果を計算した。

消費増加の根拠が弱いことから概算の位置づけとし、各方面へ経済波及効果が認められることを確認するに留めることとする。

収益性のところで算出したとおり、灯台への来訪者は63.3%増加するとしたとき22,674人増加すると考える。

以下に産業連関表の項目に合わせ、項目ごとに新規需要額を計算する。

1. 商業関係（産業連関表項番51商業）

①物販増加

・土産物購入に繋がる割合を10%、単価を1,500円と仮定する。

$$22,674人 \times 10\% \times 1,500円 = \underline{3,400,500円}$$

・ホタテ貝の絵馬購入2250個、単価500円と仮定する。

$$2250個 \times 500円 = \underline{1,125,000円}$$

・土産物+ホタテ貝絵馬 = 4,525,500円

2. 交通関係（産業連関表項番57運輸・郵便）

①二次交通増加

二次交通に繋がる割合30%、単価（往復）2,000円と仮定する。

$$22,674人 \times 30\% \times 2000円 = \underline{13,604,000円}$$

3. ホテル旅館飲食関係（産業連関表項番67対個人サービス）

①宿泊増加

宿泊に繋がる割合を10%、宿泊単価を15,000円と仮定する。

$$22,674人 \times 10\% \times 15,000円 = \underline{34,005,000円}$$

②飲食増加

・ランチに繋がる割合を20%、ランチ単価を1,000円と仮定する。

$$22,674人 \times 20\% \times 1,000円 = 4,534,000円$$

・夕食に繋がる割合を10%、夕食単価4,000円と仮定する。

$$22,674人 \times 10\% \times 4,000円 = 9,068,000円$$

・ランチ+夕食 = 4,534,000円 + 9,068,000円 = 13,602,000円

$$\text{ホテル旅館飲食関係} = \text{①宿泊増加} + \text{②飲食増加} = \underline{47,607,000円}$$

$$\text{新規需要} = 4,525,500円 + 13,604,000円 + 47,607,000円 = \underline{65,736,500円}$$

前ページで求めた新規需要を産業連関表に入力し波及効果を算出すると、108,700,000円と算出された。

波及先としては、対事業所サービス7.3百万円、飲食料品5.1百万円、情報通信2.9百万円、不動産2.8百万円、電気・ガス・熱供給2.5百万円、金融保険1.8百万円、農林漁業1.7百万円、石油・石炭製品1.7百万円、廃棄物処理1.2百万円などを中心に広く波及していることが確認できた。

当産業連関表は汎用的な物であり、また各項目の増加も仮定であるため、金額自体は参考程度となるが、各産業に波及効果を生じさせることを意識した活動を行ないたいと考えている。